

ある。

2.3. 独自学校質問紙の小中学校の両調査に関する発展的な分析

学校質問紙は、本体調査との関連の分析とは別に、集計分析を試みた。すなわち、潜在因子を想定し回答結果をその表出とみなす因子分析に替えて、潜在因子を想定せずに回答結果を直接要約する主成分分析を採用した。調査に用いた質問紙は、TALIS や全国学力学習状況調査等の既存項目を参照しつつ、重複する内容を削り、新たに項目を補い、さらに表現や回答方法を改良変更する等、全体として独自に開発した質問紙である。必然的に、データの蓄積や明確な仮説を欠くため、その集計や分析は、確証的というより探索的な意味合いが強いと判断した。これが因子分析ではなく主成分分析を採用した一つの理由である。ただし、本体調査との分析においては、統計手法を同一に揃える必要があったため、別に因子分析を実施した(2.1 及び 2.2 で報告済み)。

2.3.1. 単純集計の結果

学校質問紙は、416 校を分析対象とした。内訳は、小学校 212 (51.0%)、中学校 204 校 (49.0%) であり、Z 市内 68 校 (16.3%)、岐阜市外 348 (83.7%) だった。質問紙の開発の箇所(第IV部)で述べた通り、今回新たに、三つの質問紙(校長等管理職向け、教務主任等向け、学級担任向け)を一括して実施した。以下、それぞれに対応させて、単純集計の結果を順に述べる。集計結果は小中の合計である。なお、簡便を期し、集計結果の項目は小学校のみを示した。そのため中学校の場合、児童を生徒に適宜置き換える等して読む必要がある。

(1) 校長等(管理職)向け質問紙の集計結果(問01~16)

「第1部:学校の概要」は、「校長先生(または管理職の先生)」に回答を求めた。

以下、枠内に質問項目と集計結果を示す。

問01 校長先生ご自身は、この学校での校長としての勤務は何年目ですか。				
あてはまる選択肢の数字にひとつ、○をつけてください。				
1:1年目(今年度から)	2:2年目	3:3年目	4:4年以上	
36.5%	31.4%	20.6%	10.3%	N/A 1.2%

回答者のうち3分の1以上が、勤務校に着任したばかりの校長だった。回答者の約9割は、勤務校での勤務年数が3年以下と判明した。

問02 調査対象日現在、常勤の教員のうち、 <u>経験1年未満の教員、常勤講師</u> は何人ですか。	
1年未満の教員 <u>平均 0.96 人</u>	<u>常勤講師 平均 1.28 人</u>
最小 0 (40.3%)、最大 11 (0.5%)、N/A (2.4%)	最小 0 (49.2%)、最大 50 (0.2%)、N/A (4.8%)
* 「0」を除き集計:平均 1.63、中央値 1	* 「0」を除き集計:平均 2.64、中央値 2

集計結果から、経験 1 年未満の教員は 4 割の調査校に不在、他の調査校には 1-2 人いると判明した。また常勤講師は、約半数の学校に不在で、いる場合は 2-3 人だった。学校規模等により、多い学校はいずれも 10 人を超えた。いずれも最大数は原票で確認した。

問 03 調査対象日現在、 <u>学校の教員以外の全職員数</u> は何人ですか。
教員以外の全職員数 平均 8.19 、中央値 7 人 (うち臨時職員 平均 4.07、中央値 3 人)
最小 0 (0.5%)、最大 36 (0.2%)、N/A (1.7%) 最小 0 (19.9%)、最大 23 (0.2%)、N/A (6.5%)

「学校の教員以外」とは、事務職員やいわゆる用務員、特別教育支援員、スクールカウンセラー等を想定した項目である。学校規模等によりばらつきが大きかったため、算術平均に中央値を併記した。各校とも、教員以外の職員は 7-8 人、そのうち専任ではない臨時職員は 3-4 人が典型とわかる。

問 04 <u>教員以外の全職員の職務経験年数の内訳</u> を、 <u>人数</u> でお答えください。(臨時職員も含む)																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>1 年未満</th> <th>1 年以上 5 年未満</th> <th>5 年以上 10 年未満</th> <th>10 年以上 20 年未満</th> <th>20 年以上 30 年未満</th> <th>30 年以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平均 1.49 人</td> <td>3.12</td> <td>2.10</td> <td>1.93</td> <td>1.51</td> <td>1.36</td> </tr> <tr> <td>N/A 9.3%</td> <td>18.9%</td> <td>31.9%</td> <td>38.8%</td> <td>39.3%</td> <td>41.2%</td> </tr> </tbody> </table>	1 年未満	1 年以上 5 年未満	5 年以上 10 年未満	10 年以上 20 年未満	20 年以上 30 年未満	30 年以上	平均 1.49 人	3.12	2.10	1.93	1.51	1.36	N/A 9.3%	18.9%	31.9%	38.8%	39.3%	41.2%
1 年未満	1 年以上 5 年未満	5 年以上 10 年未満	10 年以上 20 年未満	20 年以上 30 年未満	30 年以上													
平均 1.49 人	3.12	2.10	1.93	1.51	1.36													
N/A 9.3%	18.9%	31.9%	38.8%	39.3%	41.2%													

全職員の経験年数のピークは「1 年以上 5 年未満」で、「5 年以上 10 年未満」、「10 年以上 20 年未満」が続く。20 代前半で就職と想定した場合、大半の職員は 40 歳前半よりも若いことになる。なお、N/A (無回答) のパーセンテージが比較的高かったことからみて、回答期間が短かったため、記入が困難だった項目と考えられる。該当する職員がいない場合も、無回答とせざるを得ない。年齢層で代替する等、項目の表現を改善すべきかもしれない。

問 05 以下の各項目に該当する <u>教職員の人数</u> (常勤・非常勤を含む) を、それぞれ記入してください。									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>人数 (常勤・非常勤の合計)</th> <th>N/A</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 教員：授業を主な業務とする者 (講師、養護教諭、栄養教諭を含む)</td> <td>22.15 人</td> <td>1.9%</td> </tr> <tr> <td>(2) 主幹教諭、指導教諭</td> <td>0.69 人</td> <td>4.8%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	人数 (常勤・非常勤の合計)	N/A	(1) 教員：授業を主な業務とする者 (講師、養護教諭、栄養教諭を含む)	22.15 人	1.9%	(2) 主幹教諭、指導教諭	0.69 人	4.8%
項目	人数 (常勤・非常勤の合計)	N/A							
(1) 教員：授業を主な業務とする者 (講師、養護教諭、栄養教諭を含む)	22.15 人	1.9%							
(2) 主幹教諭、指導教諭	0.69 人	4.8%							

(3) 学校の経営に携わる者（校長、副校長・教頭、その他学校経営に関することを主たる業務とする者を含む）	2.09 人	1.0%
(4) 学校の事務に携わる職員：受付、秘書、事務補助員を含む	1.44 人	1.7%
(5) 授業の支援に携わる職員：ALT、教員以外で指導や補助を行う職員、特別支援教育支援員、司書、スクールカウンセラー、など	4.51 人	1.7%
(6) その他の職員	2.25 人	9.4%

ここまでの教職員の概要に関する項目となる。単純に平均すれば、調査対象校は教職員数 30 人前後、うち 8 割以上が教員となる。「(6) その他の職員」以外は N/A もごく少なく、回答は比較的容易だったと考えられる。

問 06 調査対象である第 6 学年の児童についてお尋ねします。

以下の各項目にあてはまる児童について、学年全体に占めるおよその百分率 (%) を、下の【記号】(A から G、X) からひとつ選び、それぞれ記入してください。

項目
(1) (日本語指導以外の) 特別な支援を要する A : 50.6%、B : 33.1、C : 11.8、D : 1.9、E : 0.5、F : 0.2、G : 0.2、X : 0.5、N/A : 1.4
(2) 長期欠席、不登校の状態にある A : 39.6%、B : 49.6、C : 7.4、D : 1.0、E : 0.0、F : 0.2、G : 0.0、X : 0.2、N/A : 1.9

【記号】

A : 0% B : 1～5%未満 C : 5%～10%未満 D : 10%～20%未満 E : 20%～30%未満
F : 30%～50%未満 G : 50%以上 X : 未確認、不明

調査対象学年において、特別な支援を要する児童（中学校は生徒）、および不登校児童の率を尋ねた項目である。当該学年全体を母数とするため、学年の規模により比率が変わるが、個人情報保護の観点から、人数ではなく比率による回答が妥当と判断し、この回答形式を採用した。

調査校の半数には、特別な支援を要する児童生徒が存在しなかった。4 割強の調査校には、1～10%未満の率で特別な支援を要する児童生徒が存在した。これらの回答結果は、小中や地域による差も考えられる。長期欠席、不登校については、調査校の 4 割に存在せず、6 割弱に 1～10%未満の率で該当する児童生徒がいる。

単純集計の結果からみて、特別支援教育や不登校対応にあまりなじみがない学校も、一定数存在するといえよう。

問 07 この学校は、調査対象日から 5 年以内に、次の「研究指定や助成」を適用されたことがありますか。
該当するすべてに○印をつけてください。

あてはまらない場合や、実施していない場合は何も記入しないでください

研究指定や助成	該当する
(1) 教育委員会による研究指定	46.3%
(4) 教育委員会や文部科学省以外の公的機関による研究指定や助成	12.2
(5) 民間団体や企業等による研究指定や助成	11.3
(2) 文部科学省による研究開発学校	5.3
(3) 文部科学省による教育課程特例校（旧「教育特区」を含む）	1.7

() 内は調査時の項目番号であり、「該当する」の多い順に並べ替えた。

問 07 は、各種の研究指定の実態を把握し、学力との関連を解明するために新設した。

集計結果から、調査対象校の約半数は、教育委員会による研究指定を近年受けたことがあるとわかる。複数回答のため、一校で複数の研究指定等を受ける場合もあり得る。教育委員会や文部科学省以外の公的機関による研究指定や助成、民間団体や企業等による研究指定や助成も、調査対象校の約 1 割が経験していた。意外に、全国数千校規模で指定済のはずの「教育課程特例校」が、ごく少なかった。制度自体のなじみのなさか、自治体単位の指定が多いため各校のレベルで十分理解されていないか、いずれかと思われる。

問 08 この学校内の「ICT (情報機器) の整備状況」について、お尋ねします。

(1) から (5) のすべてにお答えください。

(1) 学習用のコンピュータ室はいくつ ありますか。	なし：1.0% 1室：97.1 2室：1.2 N/A：0.7
(2) 児童が学習に使えるコンピュータ（タブレット型端末を除く）は、何台ありますか。	だいたい <u>平均 34.9</u> 、 <u>中央値 40</u> 台くらい 最小 0 (5.0%)、最大 120 (0.2%)、N/A 3.8%
(3) 児童が学習に使えるタブレット型端末は、何台ありますか（レンタル、リース含む）。	だいたい <u>平均 20.7</u> 、 <u>中央値 3</u> 台くらい 最小 0 (42.0%)、最大 260 (0.2%)、N/A 2.6%
(4) 児童が学習に使える Wi-Fi 設備は、 ありますか。	1：ある 2：ない 3：わからない 47.5% 49.6% 1.4% N/A 1.4%
(5) 電子黒板は何台ありますか。	<u>平均 6.37</u> 、 <u>中央値 2</u> 台 最小 0 (17.5%)、最大 41 (0.2%)、N/A 2.6%

学校の施設設備、とりわけ ICT に関する設問である。調査対象校では、コンピュータ室がほ

ぼ1室、コンピュータの台数は1学級分、他にタブレット数台で、Wi-Fi設備の普及は5割弱、電子黒板は2割弱で保有していない。地域や校種、財政措置の有無等により差がありうるものの、一人に一台という環境には、ほど遠いといえよう。

問 09 この学校で、以下に挙げる「学校の施設や設備等のうち、児童の学習における活用状況」についてお尋ねします。次の項目について、あてはまる選択肢の数字にひとつ、それぞれ○をつけてください

(%)

学校の施設や設備等	活用している	活用していない	該当施設・設備がない	N/A
(3) 学校園・学級園・農場	67.9	1.9	29.0	1.2
(2) 教科教室制による教室配置	56.1	4.8	37.2	1.9
(1) オープンスペース	41.5	1.4	55.6	1.4
(4) 飼育小屋	23.5	8.9	65.9	1.7
(8) 和室	19.4	9.8	69.5	1.2
(9) 外国語活動用教室	15.6	1.2	69.5	30.5
(7) ビオトープ	12.0	4.6	82.0	1.4
(5) 小中一体型施設	2.2	1.0	95.4	1.4
(6) 天体観測施設	0.7	1.2	96.6	1.4
(10) その他	6.2	0.0	10.8	83.0

() 内は実施時の項目番号であり、選択肢「活用している」の多い順に並べかえた。

問 08 に続き、学校の施設設備に関する設問である。

上位 3 項目までが比較的普及しており、かつ活用されている施設といえよう。「飼育小屋」(23.5%)あたりから、該当施設・設備が普及しておらず、小中の違いもうかがえる結果となった。「外国語活動用教室」で N/A が突出して高い(30.5%)のは、中学校の教育課程に「外国語活動」が存在せず、中学校関係者が回答を控えたためと考えられる。

問 10 「平成 28 年度全国学力・学習状況調査」の扱いについてお尋ねします。

次の項目について、あてはまる選択肢の数字にひとつ、それぞれ○をつけてください。

1) 「自校での分析」についてお尋ねします。

次の項目について、あてはまる選択肢の数字にひとつ、それぞれ○をつけてください。

(%)

全国学力・学習状況調査 について、次の事項を...	選 択 肢					N/A
	重点的に 行った	ある程度は 行った	あまり行わ なかった	行わな かった	わからない	

(1) 学校の教職員が独自に採点を行った	25.2	13.4	6.5	52.8	0.2	1.9
(2) 自校の結果を独自に分析した	46.8	48.0	2.4	2.2	0.0	0.7

全国学力・学習状況調査を扱った問 10 は、三つに分かれる。1) で自校分析の状況、後掲する 2) で結果の共有範囲、そして 3) で調査結果の分析や活用にあたり重視したことを、それぞれ尋ねた。1) や 2) は事実確認、3) は認識や意識を問うたといえる。

1) 自校分析の状況については、独自採点の実施率が約 4 割、他方、結果の独自分析が約 9 割の調査校で実施されたとわかった。独自採点と結果の独自分析とで、実施状況に開きがあった。調査結果のフィードバックまで相応の期間を要することから、独自採点を行った調査校は結果に強い関心を寄せ、学力向上への意識が高いと想定できる。他方、約半数の学校は、結果的に独自採点の負担を回避したと思われる。この結果は、調査校の人的・時間的資源とも関連するので、一概に「結果にしか関心がない」とは非難できない。

2) **結果の共有範囲**についてお尋ねします。

次の項目について、あてはまる選択肢の数字にひとつ、それぞれ○をつけてください。

(%)

全国学力・学習状況調査の結果の共有について、次の事項を...	選 択 肢				
	重点的に 行った	ある程度は 行った	あまり行わ なかった	行わな かった	わからな い、N/A
(3) 調査対象の学年で確認・共有した	56.8	39.8	1.4	1.2	0.7
(4) 学校全体で確認・共有した	47.2	48.4	2.9	0.7	0.7
(7) ホームページや学校だより等に掲載した	20.9	41.2	12.2	24.7	1.0
(5) 保護者会や地域の集会等で説明した	9.6	52.0	16.8	20.9	0.7
(6) 学区内の(小)中学校と共有した	9.4	35.7	26.4	27.8	0.7

() 内は実施時の項目番号であり、選択肢「重点的に行った」の多い順に並べかえた。

問 10 の 2) である。全国学力・学習状況調査の結果の共有については、学年や校内の確認・共有に比べ、対外的な発信はやや限定的な状況にあった。学年や校内の確認・共有は、「重点的に行った」「ある程度は行った」の合計で 90%を優に超えるが、ホームページや学校便りへの掲載は 6 割ほど、保護者会や地域の集会等での説明や学区内の中(小)学校との共有に至っては、

あまり重点的に行われていない。とくに後者は、小中一貫教育の普及状況に限らず、改善を要するように思われる。

3) 調査結果の分析や活用にあたり、重視したことについて、お尋ねします。

次の項目について、あてはまる選択肢の数字にひとつ、それぞれ○をつけてください。

(%)

全国学力・学習状況調査の結果の活用にあたり、次の事項を...	選 択 肢				
	かなり重視した	ある程度重視した	あまり重視しなかった	重視しなかった	わからない、N/A
(10) 具体的な学習指導の改善に生かすこと	47.0	48.4	3.1	0.2	1.2
(9) めざすべき学力の特徴を理解すること	38.6	54.7	5.0	0.2	1.4
(11) 児童一人ひとりの学習改善に生かすこと	34.8	54.0	9.6	0.5	1.2
(12) 指導計画の改善に生かすこと	26.6	61.6	10.1	0.5	1.2
(8) 全国平均や都道府県平均等と比較すること	23.0	60.2	12.5	3.1	1.2
(13) 保護者や地域への説明責任を果たすこと	12.2	57.1	24.0	5.5	1.2
(14) 学力向上の取組について、具体的な協力を保護者や地域の方々から得ること	7.0	52.0	30.2	9.4	1.4

() 内は実施時の項目番号であり、選択肢「かなり重視した」の多い順に並べかえた。

問 10 の 3) は、全国学力・学習状況調査の結果の分析や活用にあたり重視したことを、意識や認識の水準で尋ねた項目である。

集計の結果、1) 2) の結果が裏付けられたといえる。すなわち、(10) 具体的な学習指導の改善、(9) 学力の特徴の理解、(11) 個々の学習改善、そして(12) 指導計画の改善は、「かなり重視した」「ある程度重視した」の合計が 85%を超える。いずれも校内で完結する。他方、(8) 全国平均等との比較、(13) 説明責任、(14) 校外への協力依頼は、「あまり重視しなかった」「重視しなかった」が相対的に多かった。

調査対象校において、全国学力・学習状況調査は、評価研究でいうところの formative evaluation (形成的／構成的評価) としての結果活用が主で、報道等で関心の高い summative evaluation (総括的評価) としての用法は二の次だったといえよう。注目すべきは、保護者や地域への説明責任や協力依頼といった項目への回答率が、明らかに低いことである。学力に関する事柄は校内のみで自力対応しようとする、専門性の一種の表れでもあるが、調査結果に基づいて、地域や保護者と協働した学力向上の施策を検討するには課題がある、とも読める。

問 11 全国学力・学習状況調査や、都道府県や市町村などで独自に実施する学力調査の他に、校内で具体的な教育指導の改善や指導計画等に反映させている、調査や検査はありますか。以下に挙げる事項の

うち、あてはまるものに、○印をつけてください。(あてはまらない場合や、実施していない場合は何も記入しないでください)

(%)

各種の調査や検査の内容	校内で具体的な教育指導の改善や 指導計画等に反映させている
(5) 学級内の人間関係に関する検査	50.4
(2) 知能検査	27.8
(1) 校外の民間企業等による模擬試験	27.3
(4) 職業に関する適性検査	6.7
(3) 性格検査	3.4
(6) その他	11.5

() 内は実施時の項目番号であり、回答率の多い順に並べかえた。

問 11 は、各種の市販テストや諸検査の利用を想定した。全国学力・学習状況調査や、都道府県や市町村などで独自に実施する学力調査以外に、児童生徒を対象とした情報収集をどれくらい行っているか、確認するためである。

集計の結果、「(5) 学級内の人間関係に関する検査」が、ほぼ半数の調査校で用いられていた。商標等の関係で固有の検査名は示さないが、個々の学力以外の対人関係的な側面を把握したいという表れであろう。他は多くとも 3 割程度の利用率にとどまった。もともと、これは小中合算した結果のため、高校受験の難易度や中学受験の受験率により、「(1) 校外の民間企業等による模擬試験」は大きく変動すると思われる。

問 12 学校のビジョン（学校がめざす児童の姿や重点的に取り組む教育活動など）について、次の人たちと、どれくらい共有していますか。

次の項目について、あてはまる選択肢の数字にひとつ、それぞれ○をつけてください。

(%)

学校のビジョン（学校がめざす児童の姿や重点的に取り組む教育活動など）を 次の人たちと...	選 択 肢				N/A
	十分 共有 している	ある程度 共有 している	あまり 共有して いない	共有して いない	
(1) 管理職、主幹教諭、各主任	86.1	12.9	0.2	0.0	0.7
(2) 常勤の、授業を行う教員 (教諭、常勤講師)	71.2	27.3	0.7	0.0	0.7
(9) 児童	48.2	47.5	3.6	0.0	0.7
(3) 授業が主たる業務ではない常勤の 職員（事務職員、学校栄養職員など）	42.2	48.7	7.9	0.5	0.7

(6) 保護者	32.6	63.8	3.6	0.0	0.7
(4) 非常勤講師、授業に関わる非常勤 教職員 (ALT、特別教育支援員など)	22.1	63.1	13.4	0.7	0.7
(5) 授業に関わらない非常勤職員 (スクー ルカウンセラー、非常勤の事務職員など)	11.3	51.3	31.7	3.6	2.2
(7) ボランティア等で関わる学校外の 関係者	9.4	53.2	29.7	7.0	0.7
(8) 地域 (主に校区) の住民	7.2	59.0	28.8	4.3	0.7

() 内の数字は実施時の項目番号であり、「十分共有している」回答率の多い順に並べかえた。

学校のビジョンの共有状況を尋ねた問 12 への回答結果から、次の二点を指摘できる。すなわち第一に、児童 (生徒)・保護者や、常勤の教職員とは、合計 9 割以上の調査校が「十分共有している」または「ある程度共有している」と回答した。第二に、その一方で、非常勤の教職員やボランティア等とはビジョンを十分には共有していなかった。これらを勘案すると、校内で同じ児童生徒の指導にあたっていても、勤務形態により学校のビジョンの共有状況が異なると解釈できる。非常勤の教職員は、職員会議への出席や校務分掌の点で、常勤の教職員に比べ、負担の程度が異なるためと想定される。

この結果を、前述した問 10 の 3) と組み合わせてみる。すると調査対象校は、a)常勤の教職員、b)児童生徒や保護者、c)非常勤の教職員、d)地域住民、というカテゴリを有したと思われる。a)は、学校のビジョンを共有し、学力調査の結果を活用する。b)も、学校のビジョンを一応共有すると回答者に想定されているが、学力調査の結果はさほど共有されていない。c)は、学力調査への関わりは不明であるが、学校のビジョンをあまり共有していないため、それほど強い関わりは考えにくい。d)もまた、学校のビジョンや学力調査の結果はさほど共有されていない。調査対象校にとって全国学力・学習状況調査は、積極的に広報すべき地域社会の関心事というより、専門的で校内の活用が主の取扱注意データとみられている、と思われる。ある意味、妥当な結果であろう。

問 13 **各種の指導計画**を作成する際、次の事項をどれくらい重視しますか。

次の項目について、あてはまる選択肢の数字にひとつ、それぞれ○をつけてください。

(%)

各種の指導計画を作成する際、 次の事項を...	選 択 肢				
	かなり 重視 する	ある程度 は 重視する	あまり 重視 しない	重視 しない	わから ない、 N/A
(14) 学校の研究テーマ	57.6	39.1	1.7	0.0	1.7
(2) 言語活動	55.6	41.7	1.2	0.0	1.4

(13) 特別な支援を要する児童の個別の指導計画	54.2	40.5	3.6	0.0	1.7
(8) 児童の実態に関する調査結果や資料	53.0	43.6	1.4	0.0	1.9
(4) 学校の教育目標に応じた教育内容の組織	52.5	43.2	2.4	0.0	1.9
(3) 知識・技能の活用	50.6	45.3	2.2	0.0	1.9
(5) 「PDCA サイクル」の遂行	43.6	50.6	4.3	0.0	1.4
(9) 前年度のカリキュラム評価の結果	40.5	50.8	6.5	0.2	1.9
(6) 指導事項の系統性	39.8	56.1	1.9	0.2	1.9
(15) 多くの教職員が参加して指導計画を作成すること	37.4	49.9	11.3	0.0	1.4
(16) 評価計画を立てること	30.5	62.4	5.5	0.0	1.6
(10) 人的・物的資源の確保	32.6	58.0	6.7	0.7	1.9
(11) 校外からの人的・物的資源の導入	18.7	61.2	17.5	1.0	1.6
(12) 財政面の負担	18.0	55.2	21.3	1.9	3.6
(1) 教科横断的な視点	16.3	66.4	14.1	0.2	2.8
(7) 地域の現状等に関する調査結果や資料	16.1	57.1	22.3	1.4	3.2

() 内は実施時の項目番号であり、選択肢「かなり重視する」回答率の多い順に並べかえた。

問 13 は、年間指導計画等、各種の指導計画を作成する際の重視事項を 4 件法で尋ねた。選択肢「重視しない」はほぼ回答が無く、実質 3 件法となり、黙従反応傾向が働いたといわざるを得ない。改善策として、優先順位を尋ねたり、複数回答を求めたりするような工夫が考えられる。

回答結果を細かくみると、調査時期も影響してか、学習指導要領関連の用語への回答が多くみられた。「学校の研究テーマ」をたとえば「言語活動」等とした場合、重複した回答になると想定できる。前の問 07 の結果からみて、調査校の 5 割弱が教育委員会からの研究指定を受けており、影響や関連も示唆される。

一方、相対的に重視されなかったのは、地域の現状等に関するデータや教科横断的な視点、財政面の負担、資源確保や校外からの導入、そして評価といった諸項目だった。いわば、学習指導要領に直接書き込まれておらず、教育委員会からの研究指定にもなりにくい事柄だったといえよう。教科学習への関心の高さを示すとも考えられる。

問 14	特別支援教育に関連して、児童の特性に応じた指導（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を、授業で配慮するよう、学校の取組として推進していますか。				
	1 : かなり推進している	2 : ある程度推進している	3 : あまり推進していない	4 : 推進していない	N/A
	29.7%	53.0%	3.6%	0.5%	13.2%

問 14 は、特別支援教育に関する設問である。13.2%の無回答 (N/A) は、該当する児童生徒がいないと解せる。ほか約 9 割の調査対象校の大半は、個々の当該児童生徒により「ある程度」が「どの程度」なのか幅がありうるが、授業で指導上の配慮を学校の取組として実施しているという。

問 15 先生からみて、この学校の教職員は、次の事柄をどれくらい実施していますか。

あてはまる選択肢の数字にひとつ、それぞれ○をつけてください。

(%)

この学校の教職員は、...	十分実施している	ある程度実施している	あまり実施していない	実施していない	わからない、N/A
(6) 学年・学級運営の状況や課題を共有する	50.8	46.5	1.7	0.0	1.0
(5) 学校特有の学力傾向や課題を共有する	44.1	50.6	4.1	0.0	1.2
(1) 校外の研修や研究会に参加する	37.9	55.9	5.0	0.0	1.2
(4) 国語科に限定せず、言語活動に取り組む	37.2	57.3	4.6	0.0	1.0
(3) 言語活動の充実のために、話し合っ て検討する。	31.7	57.1	10.3	0.0	1.0
(2) 学習指導と学習評価の計画を、協力して 作成する	24.5	64.3	9.6	0.5	1.2

() 内は実施時の項目番号で、選択肢「十分実施している」への回答率の多い順に並べかえた。

問 15 と問 16 は、校長等管理職からみた、教職員の雰囲気や様子を尋ねた。第 1 部、校長等管理職への質問紙において、最後の内容にあたる。

問 15 は、教職員のいわゆる協働に関する設問である。これも問 14 同様、「実施していない」への回答がほぼゼロで、事実上 3 件法となっており、項目として強くバイアスが働いたとみるべきだろう。所属の教職員をマイナスに評価しづらいという、管理職の認識がうかがえる。基本的にどの項目も 9 割以上の調査対象校で実施されており、そういう学校が進んで回答した傾向も疑われる。

問 16 先生からみて、この学校の教職員の様子は、どのような様子ですか。

各項目のうち、あてはまる選択肢の数字にひとつ、それぞれ○をつけてください。

(%)

この学校の教職員の様子は、...	選 択 肢				N/A
	よくあて	ある程度あて	あまりあてはま	あてはまら	

	はまる	はまる	らない	ない	
(6) お互い助け合い、協力的である	67.4	30.2	1.4	0.0	1.0
(11) 児童幸福を重視する	60.9	36.7	1.2	0.0	1.2
(12) 児童との関係が良好である	58.3	40.8	0.0	0.0	1.0
(13) 児童の発言や意見に関心をもつ	56.6	41.2	1.2	0.0	1.0
(16) 教職員が一丸となった取り組みをする	52.5	42.9	3.6	0.0	1.0
(1) 同僚の考え方を相互に尊重する	52.0	46.3	0.7	0.0	1.0
(8) 困難な問題をオープンに話し合う	49.4	43.6	6.0	0.0	1.0
(7) 会議で発言をしやすい	46.5	48.0	4.3	0.2	1.0
(9) 経験の浅い教職員に寛容である	45.6	50.6	2.9	0.0	1.0
(3) 各自の成功を共有する雰囲気がある	45.1	48.0	6.0	0.0	1.0
(17) 立場に応じてリーダーシップを発揮する	42.4	51.6	5.0	0.0	1.0
(2) 地域と連携を図っている	34.1	55.9	8.9	0.2	1.0
(10) 日常的に保護者と意見交換する	31.2	57.8	9.8	0.2	1.0
(18) 互いの実践上の知識や技能を提供し合う	29.5	62.6	6.7	0.0	1.2
(5) 学校教育に関する信念を共有している	25.7	65.0	8.2	0.2	1.0
(15) 新しい指導に積極的にチャレンジする	21.8	57.1	19.7	0.2	1.2
(20) 指導の改善に役立つ記録（メモ）を残す	18.2	63.1	17.3	0.2	1.2
(19) 各教科等の教育目標や内容の相互関連を意識して授業する	14.9	65.0	18.7	0.2	1.2
(14) 児童の卒業後も交流がある	14.4	62.1	22.1	0.5	1.0
(4) 勤務外で私的に交流する	4.1	48.4	43.6	2.9	1.0

() 内は実施時の項目番号で、選択肢「よくあてはまる」への回答率の多い順に並べかえた。

全 20 項目からなる教職員の様子に、印象で回答を求めた結果である。問 14 を除き、問 12 から問 16 まで 4 件法が機能せず、実質的に 3 件法、項目によってはほぼ 2 値データとなった。結果的に間隔尺度とみなせるかどうか、疑問が残る。校長等の管理職がこの種の対外的な調査に回答する場合、自らの実践や認識への自信の表れともとれるが、社会的な望ましさへの配慮から、バイアスがきわめて強く働いたと考えられる。

下位 5 項目の回答結果が興味深い。教員の年齢層を尋ねる項目を避けたため一概にいけないが、新しい指導への挑戦、記録、相互関連は、いずれも一定年数の経験を経た中堅教職員のスキルかもしれない。教員経験がごく短い教員は日々の授業で手一杯だろうし、既にスタイルが確立されて安定しているベテラン教員は、変化や新規導入に戸惑うだろう。校外の交流に関する 2 項目は、教職員の私生活とも関連する。学校として推奨せず、むしろ控えるケースも考えられる。

(2) 教務主任等向け質問紙の集計結果 (問 17～23)

「第 2 部 研修 (職業能力開発)」は、「教務主任、研究主任、研修主任、学年主任、主幹教

論」のいずれかに回答を求めた。設問番号は前の第 1 部から連続するが、第 1 部とは回答者がまったく異なる。そのため、回答者の確認から始める必要がある。

問 17 以下の問いに「お答えになる先生」は、どなたですか。

次の 1 から 8 のうち、あてはまるものを すべて 選んでください。

(%)

1：教務主任または主幹教諭	81.8
2：研究主任または研修主任	19.2
3：学年主任	8.2
7：学級担任ではないが、今年度第 6 学年の関係教員	7.0
5：今年度第 6 学年の学級担任	3.4
4：前年度第 5 学年の学級担任	3.1
6：学級担任ではないが、前年度第 5 学年の関係教員	2.9
8：その他	1.7

項目番号は実施時のものであり、集計結果にもとづき並べ替えた。

問 17 は「第 2 部」の回答者を確認する項目で、複数回答を求めた。教務主任または主幹教諭が回答者の 8 割を占めた。約 2 割は研究主任または研修主任だった。複数回答のため、教務主任等と兼ねるケースも想定できる。他はかなり少なかった。したがって、第 1 部の校長等とは異なり、校内の教務や研修に携わる、いわばミドルリーダーが第 2 部に回答したと解せる。おむね質問紙作成の意図通りだったといえよう。

問 18 先生は、調査日現在、次の事柄にあてはまりますか。

次の 1 から 5 のうち、あてはまるものを すべて 選び、○をつけてください。

(%)

3：校内で、他の教員の指導者（メンター）を務めている	42.0
1：自分を支援する指導者（メンター）が、校内にいる	39.3
5：1 から 4 のどれにもあてはまらない	35.3
2：自分を支援する指導者（メンター）が、校外にいる	12.9
4：校外で、他の教員の指導員（メンター）を務めている	4.6

項目番号は実施時のものであり、集計結果にもとづき並べ替えた。

問 18 は、回答者が他の教員とどのような立場で関わるか、複数回答により尋ねた項目である。集計結果から、回答者の 35.3%は他の教員のメンター役を務めず、かつ自らにもメンターがいないと判明した。この数値の多寡は、他の調査結果との比較を要するだろう。ともあれ裏を返せ

ば、6割以上の回答者は、他の教員を指導したり、あるいは指導されたりという立場にあるといえる。ただし、初任者研修の指導者等と混同された可能性も、皆無ではない。

問 19 過去 12 か月の間（平成 27 年 12 月から平成 28 年 11 月）に、先生は以下の
研修（職業能力開発）を経験しましたか。経験した場合は○印をつけてください。

過去 12 か月の間（平成 27 年 12 月から平成 28 年 11 月）に 経験した研修（職業能力開発）は...	経験した場 合、○印 (%)
(1) 他校の見学・視察（他校の授業研究への参加を含む）	89.2
(3) 教育に関する会議やセミナー（例：教員や研究者が研究成果を 発表し、教育上の課題に関して議論する）	67.4
(9) 同僚の観察・助言、コーチング活動	64.0
(8) 学校の公的な組織内指導（メンタリング）、相談	28.1
(6) 教員の力量形成（職業能力開発）を目的とする研究団体への参加	24.9
(7) 職務上、関心を持っているテーマに関する個人研究	24.9
(5) 認定証や修了証が発行される、課程（コース）やワークショップ （例：教科等の内容や指導法、その他教育関連）	14.4
(2) 企業、公的機関、非政府組織（NGO）の見学・視察	10.6
(4) 資格取得プログラム（例：修士号などの学位取得）	2.4
(10) その他	2.6

（ ）は実施時の項目番号であり、集計結果にもとづき並べ替えた。

回答者が過去 1 年で受けた研修について、問 19 で尋ねた。回答者の大半はミドルリーダーと
考えられ（問 17）、6割以上の回答者は他教員と指導・被指導の関係にある（問 19）。この層が
どのような研修を受けているか、問 19 で確認したことになる。

圧倒的に多かったのが、他校の見学・視察だった。発表や議論をともなう会議やセミナー、同
僚へのコーチング活動が 60%以上でそれに続く。他方、公的な相談や研究団体への参加、個人
研究は意外に少なく、経験率は 20%台だった。専門的な課程の受講や学校以外の見学・視察は、
10%台とさらに少なかった。

経験率の低さをニーズと捉えれば、個人研究の充実が有効と思われる。実質的に、学位取得や
各種課程の受講の前提となるからである。第 1 部のように、教育委員会の指定による学校単位の
研究（問 07）や、指導計画策定時に学校の研究テーマを重視すること（問 13）は、それぞれ一
定程度行われている。他方、問 19 の結果から、教員個人の経験に基づく個人研究は、回答者の
7割以上に無縁ということになる。この数字は、インセンティブの有無もさることながら、立場

にともなう多忙も一因として考えられる。

問 20 過去 12 カ月の間（平成 27 年 12 月から平成 28 年 11 月）、先生が経験した研修（職業能力開発）は、以下の内容を含んでいましたか。
含んでいた場合は空欄に○印をつけ、あわせて、その内容が先生の指導やその他の職務に影響した度合いについて、あてはまる選択肢 1 から 4 の数字にひとつ、○をつけてください。

(%)

過去 12 か月の間に経験した研修 （職業能力開発）の内容は...	含んで いた 場合、 ○印 (%)	指導やその他の職務への影響の度合い				N/A
		大いに 影響 した	いくら か影響 した	あまり 影響し なかつた	影響 しな かつた	
(2) 担当教科等の指導法に関する能力	82.3	46.1	50.7	2.9	0.3	17.7
(1) 担当教科等に関する知識と理解	81.5	45.6	50.0	3.8	0.6	18.5
(16) アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善	69.5	44.8	50.7	3.8	0.7	30.5
(3) 教育課程（カリキュラム）に関する知識	64.3	37.7	56.3	5.2	0.7	35.7
(10) 特別な支援を要する児童への指導	49.4	39.3	53.9	5.8	1.0	50.6
(5) 学習指導用の ICT（情報通信技術）技能	47.2	29.4	56.3	12.7	1.5	52.8
(8) 学校の管理運営、法規、制度に関する知識	45.1	45.2	46.3	5.9	2.7	54.9
(4) 児童の評価や評価方法	44.8	27.8	61.5	9.6	1.1	55.2
(17) カリキュラム・マネジメント	41.5	44.5	45.1	9.2	1.2	58.5
(9) 個に応じた学習指導の手法	40.5	37.9	58.0	4.1	0.0	59.5
(18) 組織マネジメント	39.8	34.9	53.6	9.6	1.8	60.2
(13) 教科横断的な資質・能力の育成に関する指導（例：問題解決能力、学び方の学習）	36.9	41.6	49.4	7.1	1.9	63.1
(6) 学習指導以外の職務用の ICT（情報通信技術）（例：成績入力システム、セキュリティ関連）	32.1	37.3	43.3	14.2	5.2	67.9
(7) 児童の活動と学級経営	29.7	35.5	46.8	14.5	3.2	70.3
(11) 児童の健康や安全に関する指導	26.6	33.3	47.7	15.3	3.6	73.4

(15) 教育相談やカウンセリングの知識 や技法	23.5	23.5	54.1	18.4	4.1	76.5
(14) 進路指導やキャリア教育の知識や 技法	22.3	23.7	51.6	20.4	4.3	77.7
(12) 多文化、多言語環境における指導 (日本語指導を含む)	14.9	12.9	37.1	38.7	11.3	85.1

() 内は実施時の項目番号であり、集計結果にもとづき並べ替えた。

問 20 の回答は、やや複雑な形式を採用した。研修の種類が 18 項目あり、まず自分が受けた研修内容に含まれていた場合に○印を付ける。○印をつけた項目について、指導やその他の業務への影響の度合いを、4 件法で問うた。したがって、○印の率と N/A の率とを合算すると、全体 (100%) になる。また、4 件法への回答率は、全回答者を母数としておらず、○印をつけた人数のみが母数となる。ただし回答結果をみると、選択肢「影響しなかった」への回答はごく少なく、4 件法というより実質 3 件法となった。

集計の結果、上位 2 項目は教科指導に直接関わる。続く 2 項目も授業改善や教育課程に関する内容である。回答者の多くは、主に授業の教科指導に関する研修を経験し、影響を受けたとするパーセンテージも高い。対照的に、対象者の 3 割程度しか経験しなかった下位 6 項目は、「あまり影響しなかった」、「影響しなかった」の回答率も比較的高かった。項目はそれぞれ、職務用 ICT の利用、学級経営、健康安全、教育相談、キャリア教育、日本語指導等を含んだ。学級担任を担当せず、担当者 (事務職員、養護教諭、スクールカウンセラー、日本語指導者等) がおり、教科指導と直接関係しない項目だったといえる。本来は担当ではないが、学校代表として教務主任等がやむを得ず研修に「引っぱりだされた」ケースも、想定できるかもしれない。

問 21 過去 12 カ月の間、先生が経験した研修 (職業能力開発) は、以下の方法を実施しましたか。あてはまる選択肢の数字にひとつ、それぞれ○をつけてください。

(%)

研修 (職業能力開発) の方法として...	選 択 肢		N/A
	実施した	実施しなかった	
(3) 自校や自らの実践の報告	72.7	19.7	7.7
(1) 他の教員との共同学習や研究活動	70.5	23.3	6.2
(2) 「座学」以外の参加型・体験型学習の機会	63.8	27.6	8.6
(4) 数週間から数か月に渡り、複数回に分けて行われる長期研修	16.3	65.2	18.5
(5) 2 日から 1 週間程度の短期集中型研修	16.3	66.4	17.3

() 内は実施時の項目番号であり、集計結果にもとづき並べ替えた。

問 21 は研修の方法を尋ねており、研修の内容を尋ねた問 20 と対をなす。実践報告や共同学習は 7 割以上実施されており、他の項目に比べて盛んといえよう。参加型・体験型学習の機会も 6 割を超え、決して少なくない。ただ、期間は 1 日で終わるものが多いと考えられ、数週間を超える長期研修や、2 日から 1 週間の短期集中型研修は明らかに少なかった。研修の開催場所にもよるが、主張手続き、宿泊手段や交通機関等の条件によって、左右されるところだろう。

問 22 先生は現在、以下の各事項について、どれくらいご自身の力量形成の不十分さを感じていますか。あてはまる選択肢の数字にひとつ、それぞれ○をつけてください。
(%)

自分の力量形成で不十分だと 感じているのは...	かなり 不十分 だ	やや 不十分 だ	ある 程度 足りて いる	足りて いる	N/A
(12) 多文化、多言語環境における指導 (日本語指導を含む)	24.5	55.9	17.5	1.4	0.7
(8) 学校の管理運営、法規、制度に関する知識	17.3	50.4	30.7	1.2	0.5
(18) 組織マネジメント	16.5	50.6	30.9	1.7	0.2
(17) カリキュラム・マネジメント	12.0	47.5	38.1	1.9	0.5
(6) <u>学習指導以外の職務用</u> の ICT (情報通信技術) (例：成績入力システム、セキュリティ関連)	9.6	34.8	44.6	10.8	0.2
(5) <u>学習指導用</u> の ICT (情報通信技術) 技能	9.4	39.8	40.5	9.8	0.5
(14) 進路指導やキャリア教育の知識や技法	7.9	36.0	50.1	5.3	0.7
(16) アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善	6.5	45.6	43.2	4.6	0.2
(10) 特別な支援を要する児童への指導	6.2	44.4	45.3	3.4	0.7
(15) 教育相談やカウンセリングの知識や技法	5.8	40.5	49.2	4.1	0.5
(13) 教科横断的な資質・能力の育成に関する指導 (例：問題解決能力、学び方の学習)	4.8	37.9	52.5	4.1	0.7
(3) 教育課程 (カリキュラム) に関する知識	4.6	27.1	57.3	10.3	0.7
(9) 個に応じた学習指導の手法	2.6	24.5	63.8	8.2	1.0
(2) 担当教科等の指導法に関する能力	2.4	19.7	64.0	13.2	0.7
(11) 児童の健康や安全に関する指導	2.4	22.5	67.6	7.0	0.5
(1) 担当教科等に関する知識と理解	1.9	19.2	63.1	14.9	1.0
(7) 児童の活動と学級経営	1.9	13.7	70.0	13.2	1.2
(4) 児童の評価や評価方法	1.7	23.3	63.3	11.3	0.5

() 内は実施時の項目番号であり、集計結果にもとづき並べ替えた。

問 20 の 18 項目と対応させ、不十分さを問うたのが問 22 である。最上位の「多文化、多言語環境における指導」は、問 20 で研修内容としてもっとも少なく、研修の企画や人員配置等、早急に対応を要すると考えられる。日本語を母語としない児童生徒への対応や外国語指導は、回答者が現実直面しているものの、力量形成は覚束ない状況にあるといえる。続く 3 項目は経営やマネジメントに関する内容であり、教務主任等ならでの回答結果といえよう。次に ICT 関連、アクティブ・ラーニングや特別支援、カウンセリングと続く。これ以降はおおよそ学級担任としての知識や経験に関わるものであり、回答者の過半数は相応の自信を有すると考えられる。

問 23 先生が研修（職業能力開発）に参加する場合、以下の事柄は、どれくらい影響しますか。あてはまる選択肢の数字にひとつ、それぞれ○をつけてください。

(%)

研修（職業能力開発）に参加する場合...	選 択 肢				N/A
	とても影響する	ある程度影響する	あまり影響しない	影響しない	
(1) 勤務日程上の調整	56.8	38.1	4.6	0.2	0.2
(6) 自分のニーズや希望と合わない内容	29.7	48.2	18.7	3.1	0.2
(2) 費用の高さ	18.5	41.7	31.7	7.7	0.5
(5) 参加する動機やきっかけのなさ	15.3	44.4	33.3	6.7	0.2
(4) 家庭の都合との調整	10.8	24.9	45.1	18.9	0.2
(3) 資格や経験、勤務年数などの要件不足	5.0	28.5	51.1	14.9	0.5

() 内は実施時の項目番号であり、集計結果にもとづき並べ替えた。

第 2 部最後の質問項目の問 23 は、研修への参加に影響する要因を尋ねた。回答者の大多数が勤務日程上の調整を挙げており、他の項目を大きく引き離れた。回答者の多くが教務主任等であるため、校外の研修に参加する場合、他に自分の仕事を肩代わりできる人がいるかどうか、校長や教頭等の管理職の都合はどうかなど、教務主任等に固有の要因があると推測できる。加えて公的な集合研修の場合、事前に場所や年間のスケジュールがほぼ定められており、自らの都合で変更できない。解釈としては、「研修には行きたいが、日程が合わない」、「自分は研修に行けるが、管理職の都合で学校を離れられない」となる。

日程に比べ、他の項目は影響する度合いがやや低かった。費用や家庭の都合、資格等の要件不足は、研修への参加に多少影響するが、決定的な要因ではないといえよう。これらはいわば外的な要因であるが、「参加する動機やきっかけのなさ」といった内的な要因も、ほぼ同傾向の回答

結果となった。ここまでの回答結果を総合すると、「仕事で行かなければならないし、行けばそれなりに役に立つので、行きたくないわけではないが...」、「好んで行きたくはないが、これも仕事なので、好き嫌いの問題ではないだろう」等といった解釈もありうる。

(3) 学級担任等向け質問紙の集計結果（問 24～問 34）

「第 3 部 学級内の児童（生徒）」は、「第 6 (3) 学年所属の学級担任」「(難しい場合は、第 6 (3)学年の児童の様子をよくご存知の先生)」に回答を求めた。これまで同様、設問番号は前の第 2 部から連続するが、第 1 部や第 2 部とは回答者が異なる。そのため、回答者の確認から始める必要がある。

問 24 以下の問いに「お答えになる先生」は、どなたですか。

次の 1 から 5 のうち、あてはまるものをすべて選んでください。

(%)

1 : 今年度第 6(3)学年の学級担任	81.1
2 : 今年度第 6(3)学年の学年主任、副担任、 学年所属（学級担任以外）	25.7
4 : 前年度 第 5(2)学年の学級担任、副担任、学年所 属	13.7
5 : 1~4 のいずれにも当てはまらない	1.7
3 : 今年度第 6(3)学年以外の学級担任	0.5

実施時の項目番号を、集計結果にもとづき並べ替えた。

問 24 は複数回答を求めており、回答結果に重複があるため、合計は 100%にならない。この回答結果からみて、質問紙作成時の想定と合致した層が回答した、と考えられる。実際、回答者の 8 割が、調査時点で学級担任を受け持っていた。学級担任以外でも 4 分の 1、前年度の様子を知る教員も 1 割だった。対照的に、今年度の対象学級の様子をよく知らない教員は、2%ほどとごく少なかった。

問 01 や問 17 と合わせて考えると、学校調査の質問紙を 3 部構成にしても、回答のあった学校では対応可能と判明した。逆に、回収率からみて、各部のいずれかが欠落したり、提出を見送ったりした学校も、相当数あったと目される。

問 25 これまでの先生のご経験からみて、「現在の担当学級の印象」は、次のどれに

あてはまりますか。あてはまる選択肢の数字にひとつ、○をつけてください。

(%)

1 : 例年より指導しやすい学級	25.4
------------------	------

2：ほぼ例年通り指導できる学級	44.6
3：例年より指導に配慮を要する学級	26.4
N/A 3.6	

問 25 は受け持ち学級について、経験に基づく印象を問うた項目である。回答者の 7 割は、例年通りか例年よりも指導しやすいとみているが、約 4 分の 1 は配慮を要すると回答した。これだけでは内実を判断しがたいので、他の項目と合わせて検討する必要がある。

問 26 先生からみて、担当学級の児童は、具体的にどのような様子でしょうか。

各項目について、あてはまる選択肢の数字にひとつ、それぞれ○をつけてください。

(%)

担当学級の児童は、...	選 択 肢				N/A
	よく あて はまる	ある程度 あて はまる	あまり あてはま らない	あて はまら ない	
(5) 児童同士、仲が良い	47.5	47.0	4.1	0.2	1.2
(6) 外遊びや運動を好む	26.4	53.2	18.0	1.0	1.4
(8) 音楽活動（器楽や合唱）を好む	25.7	52.8	19.4	0.7	1.4
(3) 落ち着きがある	24.7	45.1	24.5	4.6	1.2
(4) 時や場や状況にふさわしい態度 をとる	23.3	56.6	15.3	3.6	1.2
(10) 読書を好む	20.6	52.5	23.7	1.7	1.4
(1) 私語が少ない	19.9	42.0	29.3	7.0	1.9
(9) 敬語を使える	17.5	52.8	25.2	3.4	1.2
(7) 熱心に勉強する	15.6	54.7	24.9	3.6	1.2
(11) 語彙数が少ない	10.8	52.0	33.1	2.9	1.2
(2) 自分から疑問を持つ	5.0	46.0	42.4	5.3	1.2

() は実施時の項目番号であり、集計結果にもとづき並べ替えた。

問 26 は担当学級の様子について、特に場面を限定せず、素朴に尋ねた。項目の内容が比較的肯定的だったため、相応の”黙従反応傾向が働く”と想定したが、結果は意外にばらついた。うまく 4 件法が機能したといえる。あるいは、学年末に近かった調査時期からみて、担任が自らの指導を振り返り、やや厳しく回答した可能性もある。

選択肢「あまりあてはまらない」「あてはまらない」への回答を今後のニーズや課題とみるなら、項目「自分から疑問を持つ」への回答率が際立って低かった。続く「語彙数が少ない」は、

むしろ否定されるべき内容であろう。「私語が少ない」「落ち着きがある」「敬語を使える」「熱心に勉強する」への回答率の高さは、他者とのコミュニケーションや授業中の規律に関わると思われる。日々の学習指導の実態との関連が想定される。

問 27 先生からみて、**担当学級の児童の学習の様子**は、どのような印象でしょうか。
各項目について、あてはまる選択肢の数字にひとつ、それぞれ○をつけてください。
(%)

担当学級の児童の学習の様子は、...	選 択 肢				N/A
	よく あて はまる	ある程度 あて はまる	あまり あてはま らない	あて はまら ない	
(12) 間違いやつまずきを冷やかさない	37.6	41.2	15.3	4.6	1.2
(1) 教員の話を中心して聞く	25.4	58.5	13.2	1.7	1.2
(10) 学習に適した雰囲気を作り出す	24.0	60.0	13.4	1.4	1.2
(8) 他の児童の話を中心して聞く	16.3	60.4	20.6	1.4	1.2
(13) 活発に発言する	13.2	48.9	32.9	3.1	1.9
(14) 宿題をきちんとやってくる	13.2	63.3	20.6	1.7	1.2
(7) 忘れ物をする	7.4	42.9	43.2	5.3	1.2
(5) 情報や資料を活用できる	5.5	58.8	33.1	1.2	1.4
(4) 発言や発表の工夫をする	5.3	47.0	42.4	4.1	1.2
(2) 教室が騒々しい	4.6	21.8	48.0	24.5	1.2
(6) 筋道を立てて話をする	3.8	43.9	48.9	2.2	1.2
(9) 授業開始時、静かになるまで時間がかかる	3.8	15.6	41.0	38.4	1.2
(3) 自分で課題を設定できる	2.4	36.0	55.6	4.8	1.2
(11) 授業の邪魔をしようとする	0.5	4.1	23.5	70.5	1.4

() は実施時の項目番号であり、集計結果にもとづき並べ替えた。

問 27 は、学習面に絞った様子を尋ねた。問 26 同様、選択肢「あまりあてはまらない」「あてはまらない」への回答を今後のニーズや課題とみとめる。項目「授業の邪魔をしようとする」「授業開始時、静かになるまで時間がかかる」「教室が騒々しい」「忘れ物をする」は、いずれも授業中の規律に直結する。どれも「あてはまらない」方が一般に望ましいため、妥当な回答結果といえる。ただし、これら 4 項目はいずれもいわゆる「学級崩壊」の状況を連想させ、担任として「あてはまる」とは答えにくい。その点、これら 4 項目への「よくあてはまる」「ある程度あてはまる」の回答は、軽視できない。全体の約半数の学級で忘れ物が頻発し、約 4 分の 1 の学級は授業中も騒々しく、約 2 割は開始時に静かにならず、5%弱で授業妨害行為が起こっている。

速やかな対応や配慮を要するだろう。

他に目立つのは、項目「自分で課題を設定できる」「筋道を立てて話をする」「発言や発表の工夫をする」「情報や資料を活用できる」への回答結果である。いずれも自発的な学習活動への参加や実施に関わる内容であり、これらの項目への回答率の低さは、やや受動的な学習者の姿を浮かび上がらせる。もっとも、自発的に学習参加する場を設定していなければ、ある意味当然の結果かもしれない。

問 28 学級全体や学級内のグループによる話し合い活動について、お尋ねします。

1) 学級全体や学級内のグループによる話し合い活動は、今年度どれくらい、授業等に取り入れていますか。あてはまる選択肢の数字にひとつ、○をつけてください。

1：ほぼ毎回	2：2回に1回くらい	3：1日1回くらい
21.6%	16.1%	18.9%
4：2、3日に1回くらい	5：週に1回くらい	6：あまり行わない
16.8%	17.5%	4.6%
7：わからない		
0.5%	N/A 4.1%	

問 28 はいわゆる話し合い活動について尋ねており、三つの下位設問からなる。1) で頻度を確認し、2) で具体的な話し合い活動の実施状況を尋ね、3) で話し合い活動の結果を問う、という構成である。教科等の別は問わなかったが、道徳については問 32 で別に設問を設けた。

まず1) では、回答者の約8割が、週に1回よりも多い頻度で話し合い活動を行っていると回答した。ほぼ毎回、および2回に1回くらいという選択肢で、3割を優に超える。

2) 次の活動について今年度、先生はどれくらい行いましたか。

あてはまる選択肢の数字にひとつ、それぞれ○をつけてください。

今年度、自分の学級では、...	選 択 肢				N/A
	よく 行った	い くら か 行 っ た	あ ま り 行 わ な か っ た	行 わ な か っ た	
(2) 課題の解決に向けて話し合う活動	33.3	58.0	7.4	0.0	1.2
(4) 話し合った内容を発表する活動	32.6	57.6	8.4	0.2	1.2
(1) 児童自ら、学級やグループで課題	13.4	59.5	24.0	1.9	1.2

を設定する活動					
(3) 児童が話し合いを記録する活動	7.9	42.7	42.0	6.2	1.2
(5) 話し合いを通して、新たな課題を発見する活動	7.0	44.1	43.9	3.8	1.2

() は実施時の項目番号であり、集計結果にもとづき並べ替えた。

続く問 28 の 2) は、実質的に 3 件法となった。課題解決のための話し合いや発表はよく行われているが、課題設定や記録、探索的な話し合い活動は相対的にあまり実施されていない。いわゆるブレインストーミングやアイデアを出し合う創発的な話し合いよりも、教員に指示された課題に対応する収束型の話し合いが多いと推察できる。

3) 担当学級の児童は、次の事柄をどれくらいできていると思いますか。
 あてはまる選択肢の数字にひとつ、それぞれ○をつけてください。

(%)

担当学級の児童は話し合い活動で、...	選 択 肢				N/A
	よく できて いる	ある程度 できて いる	あまり できて いない	できて いない	
(8) 児童同士で教え合う	37.4	55.6	5.5	0.2	1.2
(2) 相手の考えを最後まで聞く	24.0	60.0	14.1	0.7	1.2
(4) 話し合いが進む雰囲気を作る	19.9	57.1	20.9	0.7	1.4
(6) 理由（根拠）をつけて意見を言う	12.9	60.2	25.2	0.5	1.2
(1) 自分の考えを相手に伝える	10.6	69.8	18.0	0.5	1.2
(3) 話し合いの内容を自分に関係ある 問題としてとらえる	8.4	56.1	33.3	0.7	1.4
(7) 話し合いの目的（結論をだすのか、 考えを広げるのかなど）に応じた 話し合いをする	7.4	57.3	32.4	1.4	1.4
(5) 自分の考えを深め、広げる	4.1	45.1	47.5	1.9	1.4

() は実施時の項目番号であり、集計結果にもとづき並べ替えた。

問 28 の 3) である。これも実質的に 3 件法となった。教員による指導不足を認めることになるため、「できていない」とは回答しづらいと思われる。選択肢の表現を改め、間隔尺度へと近づける必要があるだろう。

下位 3 項目への回答結果が特徴的である。2) の結果から推察できるように、現在の話し合い活動で、項目「自分の考えを深め、広げる」を達成するには課題がある。話し合いの目的への対応や、どこか人ごとな様子も、教員が課題を指示して児童生徒に話し合わせているとみれば、納得がいく。他の項目への回答から、話し合いのスキルはある程度達成できてはいるが、何のための話し合いかを自覚したり、自分の考えを深め広げたりといった、スキルよりも高次の事柄は、なお課題が多い。話し合い指導に関し、「どう話し合わせるか」は、教員の引き出しの多さや経験にもよるだろう。

問 29 次の学習指導に関する事柄について、先生はご自身の指導力にどれくらい 課題を感じていますか。あてはまる選択肢の数字にひとつ、それぞれ○をつけてください。

(%)

学習指導に関する事柄について、...	かなり 課題が ある	ある程度 課題が ある	あまり 課題は ない	課題は ない	指導の 機会が ない、 N/A
(6) タブレット、電子黒板等の機器利用	16.8	38.6	26.6	9.1	7.4
(9) 異学年交流を用いた指導	11.3	30.2	30.2	6.2	22.1
(11) 道徳の指導	7.4	47.5	38.6	4.8	1.7
(10) 総合的な学習の時間の指導	7.2	46.0	39.8	5.3	1.7
(3) 話し合い活動の指導	4.8	55.6	34.1	4.1	1.4
(5) 掲示物の工夫や活用	3.8	44.1	41.7	8.6	1.7
(8) ティームティーチングや少人数指導	3.6	29.7	41.2	7.7	17.7
(4) 板書指導の技術	3.4	42.0	45.6	7.0	2.2
(12) 学級活動の指導	3.1	38.6	50.1	6.2	1.9
(1) ノート指導	2.6	44.6	44.8	5.0	2.9
(2) 学習のきまりの指導	1.2	24.7	59.0	13.7	1.4
(7) プリント、ワークシートの活用	0.5	22.8	60.9	14.4	1.4

() は実施時の項目番号であり、集計結果にもとづき並べ替えた。

問 29 は学習指導について、教員が自覚するニーズを 12 項目設け、回答を求めた。

上位 2 項目と下位 2 項目が対照的である。プリントやワークシートの活用、学級中心に行う学習のきまりの指導は、多くの教員にとってさほど困難ではない。対照的に、新しい機器の利用や学年を超えた指導はやや苦手、となろう。学習内容についても、道徳や総合的な学習の時間といった、免許教科以外の内容に課題を感じている。問 28 で尋ねた話し合い活動も、指導上の課題を認める教員が少なくない。

問 30 **児童の学習を評価**するとき、先生は次の事柄をどれくらい重視していますか。
 あてはまる選択肢の数字にひとつ、それぞれ○をつけてください。

(%)

学習評価について、 次の事柄を...	選 択 肢				N/A
	かなり 重視する	ある程度 重視する	あまり 重視しない	重視 しない	
根拠となる資料	57.6	39.3	1.9	0.0	1.2
評価方法の適切さ（妥当性）	52.0	44.8	1.7	0.0	1.4
正確さ	49.6	47.7	1.4	0.0	1.2
児童への励まし	42.2	49.9	6.5	0.0	1.4
客観性	39.8	53.5	5.5	0.0	1.2
保護者への説明	38.1	53.0	7.4	0.0	1.4
児童による授業の振り返り	30.7	57.1	10.8	0.2	1.2
児童が自分で丸付けや間違い 直しができるようになること	25.9	56.8	13.7	2.4	1.2
他の教員との足並み	24.5	62.4	11.0	1.0	1.2

集計結果にもとづき学力代理変数を並べ替えた。

問 30 は学習評価について尋ねた。ほぼ 3 件法となり、やはり否定的な回答をためらう傾向が見られた。特に成績評価等は結果が重大なため、慎重に回答したと思われる。

上位項目からみて、資料や妥当性、正確さや客観性と同様に、「児童（生徒）への励まし」が重視されていた。学習評価はいわゆる証明機能だけでなく、教育的な効果も想定されているといえる。他方、児童（生徒）による評価結果の活用は、相対的に少なかった。総括的評価に比べると、形成的評価の機能はやや弱いといえよう。

問 31 先生は、次のような授業を実施するのは、どれくらい自信がありますか。

あてはまる選択肢の数字にひとつ、それぞれ○をつけてください。

(%)

次のような授業の実施について...	選 択 肢				N/A
	かなり 自信が ある	ある程度 自信が ある	あまり 自信が ない	自信が ない	
(1) 先生がわかりやすく説明をする	8.2	74.6	15.6	0.2	1.4
(2) 学級やグループで児童が話し合う	3.8	68.6	25.7	0.5	1.4
(3) 児童が情報を集めて課題を解決する	1.9	49.4	46.0	1.2	1.4
(4) 練習問題を解かせて習熟させる	8.4	79.1	10.8	0.2	1.4

問 30 とは対照的に、問 31 は学習指導で自信のあることを尋ねた。これも実質 3 件法となった。わずかに 4 項目ではあるが、明確に「教員が説明し、練習問題で習熟させる」という学習スタイルに多くの教員が慣れ親しんでいるとわかる。一方、「話し合いをもとに、児童が情報収集して課題解決する」スタイルは、相対的にみて「あまり自信がない」という回答結果が多かった。問 28、問 29 の結果と矛盾せず、整合性が認められる。

問 32 道徳の時間で、児童自らが考え話し合う指導は、どれくらい行っていますか。

1 : ほぼ毎回 2 : 2 回に 1 回程度 3 : 月に 1 回程度

31.2% 19.7% 28.5%

4 : 学期に 1 回程度 5 : ほとんど行っていない

14.1% 5.0% N/A : 1.4%

話し合い活動という点で問 28 と似ているが、道徳のみについて尋ねたのが、問 32 である。「特別の教科 道徳」への移行にあたり、自らが考え話し合う道徳の実施状況を問うた。「学期に 1 回程度」「ほとんど行っていない」等、あまり活発に行われていない実態も、一定数見受けられた。

問 33 現在の担当学級の児童の家庭学習のようす (通塾や習いごとを除きます) は、

どれくらいだと思いますか。あてはまる選択肢の数字にひとつ、○をつけてください。

(%)

1 : とても熱心に取り組んでいる	4.8
2 : ある程度熱心に取り組んでいる	65.9

3 : あまり熱心に取り組んでいない	25.2
4 : 熱心に取り組んでいない	2.9
N/A 1.2	

問 33 は、学校外の家庭学習の様子について尋ねた項目である。同様の項目を設け、児童生徒による回答と照合することで、教員と学習者との認識のズレを見出せよう。回答者の約 3 割は、児童生徒はあまり熱心に取り組んでいないはずだ、と回答した。宿題をどう出すか、家庭学習の習慣化をどうはかるか、といった項目との関連について、分析を要する。

問 34 現在の担当学級の児童のうち、**学習塾に通っている割合**は、どれくらいだと思いますか。あてはまる選択肢の数字にひとつ、○をつけてください。

(%)

1 : 2 割未満	13.4
2 : 2 割から 4 割くらい	29.5
3 : 4 割から 6 割くらい	23.3
4 : 6 割から 8 割くらい	18.7
5 : 8 割以上	12.2
9 : わからない、N/A	2.9

第 3 部最後の項目は、通塾状況を尋ねた問 34 である。

小中の学校段階の違いや、中学受験の盛んさといった地域性にもよるが、想定する通塾の割合は広く分布した。小中それぞれの最高学年ということもあり、全体の 4 割以上が通塾するとの回答は、50%を超えた。半数以上の回答者は、通塾を前提として学習指導を行う必要に迫られているといえよう。

以上、全般的な単純集計の結果からみて、3 部構成の質問紙調査は実施不可能ではなく、従来に比べ妥当性の高い調査を実施できたと考えられる。ただし、黙従反応傾向の克服にはなお課題が残り、一部の回答結果は積率相関係数から因子分析、重回帰分析という手続きを実施するにはやや難がある、といえよう。

2.3.2. 主成分分析、分散分析の結果

単純集計の結果をもとに、次の手順で分析を進めた。

(1) 3.1.の確認を経て、回答に黙従反応傾向が顕著だった項目群を、一部補正した（例：4 件法を 3 件法へ再集計）。

(2) 次に、潜在因子を想定しない主成分分析（回転無し）を実施し、回答結果にもとづく項目群の縮減と要約を試みた。主成分分析により得られた成分行列を参照し、主成分以外に 0.3 以上

負荷した項目を削除した。

(3) 上記(2)の手続きを、主成分のみからなる項目群を得るまで繰り返した。

(4) 以上の手続きを経て得られた項目群につき、クロンバックのアルファ係数により信頼性を確認した。アルファ係数がおおむね 0.7 以上の項目群を採用した。

(5) 項目群ごとに、主成分分析にもとづく成分得点を算出した。

(6) 主成分分析の結果が思わしくない項目群や、2 値データからなる項目群は、項目への回答を単純加算して合成得点を作成した。この合成得点の度数分布につき、正規性を確認した。

(7) 以上の手続きを経て得られた計 20 の項目群の成分得点（または合成得点）につき、2 要因の分散分析（小中学校×Z 市内外×成分得点（または合成得点））を実施した。結果を次ページの表に簡単に示す。表中、「独自調査」(1)～(3)は、それぞれ第 1 部、第 2 部、第 3 部に相当する。なお別途、異なる因子分析（回転有り）によって因子得点を算出して分析を進めたため、他の詳細な統計量は割愛した。

表 独自調査(1)～(3)、一部項目の検討結果

は、回答を加算した合計得点を用いた。それ以外は、主成分分析を経て成分得点を算出して用いた。

**仮、略記。

独自調査(1) (校長等管理職対象、第1部) および独自調査(2) (教務主任等対象、第2部) の13項目群中、9項目群で、一もしくは二つの主効果が統計的に有意だった。これら9項目群は、小中学校別または(かつ)Z市内外別に検討すべき、と考えられる。とりわけ、Z市内外別による違いは、9項目群中7項目群に及んだ。この結果は、回答者の意識差もさることながら、悉皆と標本抽出という調査対象の選定の違いを反映したと考えられる。両者は匿名性という点で、明らかに異質だからである。

一方、独自調査(3) (学級担任等、第3部) は、7項目群中、わずか1項目でZ市内外の別があった。他は学校段階やZ市内外で統計的な差が認められなかった。管理職ほどZ市内外の差が目立っており、回答者が地域や教育委員会を意識して回答した一方で、学級担任は明らかに異なる回答傾向を示しており、興味深い。管理職に比べ学級担任は数が多く、匿名性が比較的保たれていることが一因と考えられる。

第3章 全国学力・学習状況調査と新しい質問紙調査の対応分析・独自の観点からの分析

ここまで、H27年度、28年度の児童質問紙調査、生徒質問紙調査、小学校調査、中学校調査、独自の児童調査A・B、生徒調査A・B、小学校調査、中学校調査の合計14種類の大規模データの分析結果を報告した。それぞれに対して、記述統計量や相関分析、因子分析、信頼性分析、重回帰分析などが適用されることによって有意義な知見が得られたと考えられるが、各調査間の分析は行われてこなかったため、ここではデータセット間で可能な範囲で調査間の分析を行った。ただし、14種類のデータのなかからいくつかを組み合わせる場合、その組み合わせの数は大きくなり、結果の報告が現状よりもさらに膨大となる。そのため、ここではその一部としてZ市の独自の小学校調査のデータセットに対して、H28年度本体小学校調査、独自児童調査の変数を結合したデータセットを作成して調査間での変数の関連性を相関分析した結果を以下の1節～3節にて示す。解釈可能な意味のある相関係数が多数見出され、調査間の分析の意義が認められる。さらに、これら以外の独自の分析を4節以降に報告する。

1. 平成28年度本体調査の学校調査と新しい学校調査との関連性の検討

平成28年度本体調査の小学校調査で見出された各因子と、独自の新しい小学校調査にて見出された各因子との間の相関係数は以下の通りであった。

		28年度 学校調査 (小学校) 因子分析結果に基づく尺度得点						
	1	2	3	4	5	6	7	
1	.507 ***	.407 **	.522 ***	.393 **	.402 **	.387 **	.103	
2	.169	.041	.201	.205	.279 †	.215	-.045	
3	.300 *	.241	.370 *	.161	.408 **	.249 †	.251 †	
4	.282 †	.358 *	.352 *	.316 *	.263 †	.112	.040	
5	.323 *	.218	.485 ***	.213	.377 *	.186	.061	
6	.472 **	.437 **	.540 ***	.278 †	.389 *	.385 *	.283 †	
7	.316 *	.231	.376 *	.081	.354 *	.326 *	.012	
8	.150	.014	.098	.241	.174	.271 †	-.036	
9	.366 *	.416 **	.388 **	.241	.368 *	.254 †	.234	
10	.528 ***	.406 **	.480 ***	.292 †	.488 ***	.436 **	.202	
11	.459 **	.425 **	.438 **	.245	.415 **	.319 *	.197	
12	.333 *	.272 †	.316 *	.186	.248	.223	.130	
13	-.189	-.353 *	-.057	-.294 *	-.170	-.101	-.474 ***	
14	.287 †	.093	.420 **	-.097	.104	.133	-.148	
15	.338 *	.103	.579 ***	-.052	.228	.206	.012	
16	.138	.133	.421 **	-.045	-.076	-.089	.058	

17	.305 *	.106	.530 ***	-.086	.127	.240	-.054
18	.177	.051	.102	.069	.372 *	-.004	-.010
19	.259	.363 *	.116	.342 *	.212	.119	.248
20	.072	.016	.177	-.193	.000	.023	-.099
21	-.039	-.128	.080	-.412 **	-.089	-.114	.050

28年度 学校調査（小学校） 因子分析結果に基づく尺度得点

	8	9	10	11	12	13
1	.117	.358 *	-.030	.076	.214	.157
2	.053	.084	-.155	.224	.116	.083
3	.040	.319 *	-.210	-.019	-.104	.171
4	.251 †	.206	-.073	-.092	.035	.151
5	.249 †	.196	-.353 *	-.048	.142	.202
6	.026	.430 **	-.202	-.152	.090	.223
7	.186	.131	-.060	.029	.130	.256 †
8	.072	.119	.005	.209	.381 *	.204
9	.199	.189	-.154	-.135	.059	.356 *
10	.083	.147	-.192	.016	.212	.344 *
11	.269 †	.127	-.241	-.050	.133	.340 *
12	.098	.079	-.214	-.035	.115	.313 *
13	-.079	-.406 **	-.100	.053	-.067	-.055
14	.310 *	.047	-.123	.164	.230	.076
15	.317 *	.167	-.049	.048	.226	.113
16	.173	.092	-.160	-.155	.003	.040
17	.140	.218	-.108	.121	.182	.070
18	.074	.046	-.115	.110	.012	.096
19	-.036	.008	.125	.147	.033	.076
20	.055	.089	.007	.088	.192	.305 *
21	-.098	.076	-.249 †	-.002	-.215	.149

変数名一覧

- 1 <全国学力・学習状況調査：指導改善への活用>
- 2 <全国学力・学習状況調査結果：保護者等への説明と協力依頼>
- 3 <全国学力・学習状況調査：結果の分析・共有>

- 4 <校外関係者とのビジョン共有>
- 5 <校内でのビジョン共有>
- 6 <指導計画：基本的重点課題の重視>
- 7 <指導計画：組織的な取り組みの重視>
- 8 <指導計画：人的・物的資源の重視>
- 9 <教職員の協働>
- 10 <同僚性>
- 11 <カリキュラム・マネジメントの実践>
- 12 <児童志向>
- 13 <力量不足：新しい教育課題への対応>
- 14 <児童の様子：学習規律>
- 15 <児童の様子：言葉の力>
- 16 <児童の様子：活発な学級>
- 17 <児童の様子：対話の態度形成>
- 18 <指導力の課題：基本的な学習指導>
- 19 <指導力の課題：多様な学習指導題>
- 20 <学習評価：エビデンス>
- 21 <学習評価：指導性>

2. 平成 28 年度新しい児童生徒調査と新しい学校調査との関連性の検討

調査用紙 A 全体因子分析結果に基づく尺度得点							
	1	2	3	4	5	6	7
1	.305	.066	.015	-.267	-.043	-.181	.064
2	.110	.038	-.347	.061	.112	.013	.092
3	.253	.117	-.136	-.062	.077	-.058	.301
4	.005	-.098	-.150	-.126	-.236	-.360	-.200
5	.305	.211	-.110	.082	.083	-.069	.040
6	.198	.099	-.274	.052	-.028	-.004	.069
7	.129	.051	-.216	-.003	-.027	-.183	-.019
8	.173	.107	.039	-.300	.000	-.170	.222
9	-.015	-.003	-.350	.002	-.119	-.172	-.119
10	.226	.269	-.162	-.023	.196	.064	.193
11	.126	.140	-.191	-.013	-.004	.006	-.004
12	.028	.000	-.386 †	-.029	.010	-.059	.042
13	-.087	-.179	-.003	.037	.169	-.067	.092
14	.630 **	.503 *	.492 *	.143	.641 **	.455 *	.356
15	.575 **	.495 *	.443 *	.035	.448 *	.364 †	.146
16	.105	-.053	.037	-.019	.085	.094	-.213
17	.455 *	.313	.323	-.052	.400 †	.145	.254
18	.115	.129	.024	-.027	-.123	.044	.173
19	-.052	-.047	-.115	-.018	.144	.226	.174
20	-.165	-.082	.211	-.095	-.181	-.309	-.150
21	.146	-.008	-.164	.228	.029	-.164	.420 †

調査用紙 A 新規項目										
	対人関係能力	課題対応能力	基本的生活習慣	家庭でのコミュニケーション	地域との関わり	道徳	先生との学び	主体的で深い学び	対話的で深い学び	自尊感情
1	.180	.119	-.027	-.163	-.093	.139	.167	.281	.390†	-.162
2	.092	-.166	.116	-.250		.089	.209	.005	.072	.102

4	-.068	.055	-.158	-.185	.015	-.142	.034	.010	.078	-.322
5	.266	.206	.246	-.138	.201	.134	.250	.217	.317	-.029
6	.226	-.012	.332	-.185	-.017	.166	.123	.033	.193	.116
7	.172		.197	-.062	-.039	.060	-.003	.016	.187	.013
8	-.007	.010	.105	-.024	-.242	.251	.232	.129	.149	-.054
9	.050	.033	.177	-.065	-.131	-.066	-.040	-.130	-.017	-.013
10	.242	.146	.394 [†]	-.116	-.174	.239	.078	.085	.254	.105
11	.151	.074	.320	.074	-.171	.062	.012	.023	.107	.161
12	.117	-.234	.219	-.308	-.148	.136		-.211	.130	.021
13	.052	-.101	-.325	.112	-.057	.014	-.203	-.128	.060	-.018
14	.590**	.555**	.332	.569**	.253	.333	.710***	.603**	.564**	.489 [†]
15	.502*	.475*	.369 [†]	.407 [†]	.228	.178	.452*	.598**	.520*	.354
16	.151	-.097	.015	.150	.126	-.169	.244	-.026	.137	.159
17	.363	.344	.232	.253	.113	.243	.382 [†]	.446*	.490*	.200
18	.077	.109	.145	.125	-.143	.222	-.105	.188	-.009	.112
19	-.040	-.162	.028	.259	-.276	.133	-.167	-.053	-.149	.389 [†]
20	-.135	.059	-.123	.224	-.015	-.118	-.326	-.063	-.200	-.320
21	.121	-.115	.141	-.246	.116	.470*	.011	.087	.151	-.069

調査用紙 A 妥当性項目

	SC	親の監督	公的交流	私的交流	対人 望ましい 行動	対人 遵守すべ き行動	個人 遵守すべ き行動
1	-.076	.189	-.337	.030	.003	-.148	.087
2	-.134	-.313	.151	-.242	.216	.140	-.154
3	-.185	-.033	-.024	-.244	.118	.092	-.238
4	.141	-.113	-.157	.026	-.098	-.326	.039
5	-.245	-.066	.013	.094	.300	-.022	-.128
6	-.219	-.180	.098	-.093	.071	-.056	-.441 †
7	-.083	-.192	.024	-.052	.038	-.008	-.316
8	-.154	.085	-.373	-.114	.177	.042	.059
9	-.021	-.420 †	.085	-.161	-.007	-.139	-.354
10	-.299	-.128	-.008	-.057	.314	.154	-.084
11	-.142	-.324	.056	-.098	.099	-.038	-.146
12	-.114	-.334	.014	-.125	.129	.053	-.324
13	.188	-.076	.071	-.065	.003	.310	-.060
14	-.475 *	.415 †	.021	.239	.537 **	.600 **	.184
15	-.511 *	.471 *	-.125	.248	.509 *	.343	.187
16	-.034	.089	-.082	.083	.051	.095	-.245
17	-.339	.404 †	-.180	.088	.427 *	.402 †	-.032
18	-.060	-.178	.048	-.057	-.142	-.196	.224
19	.077	-.433 †	.160	-.368	-.051	.288	.118
20	.184	.115	-.175	.302	-.229	-.197	.190
21	.027	-.169	.273	.057	.063	.079	-.100

調査用紙 B 全体因子分析結果に基づく尺度得点

	1	2	3	4	6	7
1	-.029	.050	-.044	-.030	.455	.054
2	.084	.123	.208	.160	.230	.070
3	.106	.442	.143	-.088	.717 ***	.128
4	.098	.199	.180	.198	.188	-.003
5	-.006	.348	.148	.151	.224	-.003

6	.203	.035	.094	.220	.547	.229
7	.244	.204	.239	.304	.573 **	.086
8	-.258	-.003	-.083	.127	-.023	-.258
9	.177	.292	.361 †	.282	.491 *	.120
10	.072	.142	.139	.156	.302	.139
11	-.081	.159	.196	.039	.373	-.057
12	.001	.094	.158	.133	.292	.011
13	.038	.227	-.155	.043	-.092	.192
14	.309	.264	.140	.225	.336	.162
15	.512 *	.373 †	.407 †	.491 *	.232	.531 **
16	.570 **	.519 *	.494 *	.338	.193	.521 *
17	.518 *	.226	.235	.285	.285	.419 *
18	-.231	-.037	-.098	-.070	-.184	-.146
19	.057	-.402 †	-.132	-.170	-.237	-.070
20	-.040	.190	.048	.144	.302	-.054
21	.219	.301	.098	.089	.451 *	.336

	8	9	10	11	12
1	-.306	.149	.109	.078	-.201
2	.028	.247	-.033	.291	.087
3	-.092	.537 **	.247	.112	.061
4	.198	.305	-.163	.177	.127
5	-.291	.302	.067	.162	-.055
6	.047	.289	.064	.345	.032
7	.354	.286	-.075	.362	.356
8	.209	-.112	-.468 *	-.056	.212
9	.244	.481 *	-.067	.303	.203
10	-.199	.141	.186	.237	-.044
11	-.060	.312	-.131	.107	-.049
12	.005	.157	-.109	.182	.099
13	-.169	-.020	.232	.150	.048
14	-.020	.258	.249	.411 †	.218
15	-.042	.315	.480 *	.680 ***	.331
16	-.063	.427 *	.643 ***	.571 **	.265

17	.231	.295	.392 †	.551 **	.360 †
18	-.575 **	-.227	-.052	-.165	-.328
19	-.357	-.455 †	.112	.025	-.222
20	-.296	.301	.013	.012	-.042
21	.110	.443 *	.309	.233	.274

調査用紙 B 新規項目

	国語 有用感	算数有用感	国語 有能感	算数 有能感	方略 外的	方略 内的	暗記・繰り 返し	社会への 興味	将来へ の 意識
1	.009	-.038	.455 *	.107	-.306	-.195	-.208	.122	-.031
2	-.043	.084	.230	.280	.028	.201	.003	-.012	.025
3	.133	-.039	.717 ***	.351	-.092	.003	.108	.387	.376 †
4	.038	.087	.188	.174	.198	.245	.023	.003	.120
5	.055	.129	.224	.175	-.291	-.025	-.117	-.034	.277
6	.052	.124	.547 *	.159	.047	-.092	.150	.129	-.027
7	-.035	.123	.573 **	.299	.354	.370 †	.361	.155	.070
8	-.102	-.111	-.023	-.135	.209	.170	.195	-.045	-.045
9	.055	.206	.491 *	.397 †	.244	.184	.248	.154	.153
10	.150	.195	.302	.188	-.199	-.100	-.047	.102	.078
11	-.127	.025	.373 †	.258	-.060	-.082	.021	.091	.027
12	.086	.092	.292	.191	.005	.093	.073	.211	.023
13	.226	.072	-.092	-.164	-.169	-.066	.027	-.034	.337
14	.299	.272	.336	.100	-.020	.188	.162	.276	.193
15	.382 †	.594 **	.232	.322	-.042	.398 †	.203	.203	.374 †
16	.476 *	.680 ***	.193	.387 †	-.063	.263	.188	.313	.466 *
17	.310	.378 †	.285	.191	.231	.252	.423	.282	.252
18	-.048	-.050	-.184	-.146	-.575 *	-.327 *	-.395 †	-.106	-.024
19	.037	.107	-.237	-.276	-.357	-.369	-.169	-.016	-.393 †
20	-.023	-.040	.302	.153	-.296	-.002	-.066	.471	.249
21	.314	.082	.451 *	.230	.110	.146	.345	.629 *	.423 *

調査用紙 B 妥当性項目

	有用感 将来, 自己	有用感 興味	有用感 他者比較	学校期待 学習内容	学校期待 教師	積極性	キャリア 関与	キャリア コントロール	
1	.039	-.030	.017	.078	.109	.112	.139	.118	
2	.170	.160	.081	.291	-.033	.175	.241	.266	
3	.180	-.088	.103	.112	.247	.477	.479 *	.565 **	**
4	.149	.198	.006	.177	-.163	.222	.266	.325	
5	.044	.151	-.076	.162	.067	.210	.389 †	.332	
6	.332	.220	.246	.345	.064	.269	.140	.241	
7	.377 †	.304	.132	.362	-.075	.199	.340	.352	
8	-.236	.127	-.244	-.056	-.468 *	-.164	.067	-.102	
9	.289	.282	.109	.303	-.067	.361 †	.438 *	.497 *	*
10	.139	.156	.044	.237	.186	.110	.188	.162	
11	.019	.039	-.069	.107	-.131	.190	.278	.352	
12	.027	.133	-.015	.182	-.109	.152	.180	.178	
13	.034	.043	.125	.150	.232	.001	.078	.025	
14	.356 †	.225	.095	.411 †	.249	.256	.319	.281	
15	.533 **	.491 *	.504 *	.680 ***	.480 *	.367 †	.385 †	.311	
16	.550 **	.338	.433 *	.571 **	.643 ***	.405 †	.534 **	.462 *	*
17	.603 **	.285	.401 †	.551 **	.392 †	.354 †	.182	.329	
18	-.289	-.070	-.192	-.165	-.052	-.207	-.092	-.222	
19	-.030	-.170	-.100	.025	.112	-.395 †	-.422 †	-.403 †	†
20	-.006	.144	-.112	.012	.013	.401 †	.124	.207	
21	.258	.089	.280	.233	.309	.545 **	.188	.402 †	†

3. 平成 28 年度本体調査の学校調査と新しい児童生徒調査との関連性の検討

調査用紙 A							
全体因子分析結果に基づく尺度得点							
	1	2	3	4	5	6	7
1	.083	.181	-.091	-.369	-.078	-.086	-.077
2	-.005	-.051	-.060	-.372 †	-.254	-.030	-.073
3	.145	.228	-.163	-.202	-.054	-.171	-.136
4	.240	.127	.051	-.085	-.045	.161	.020
5	.062	.336	-.077	-.134	-.050	-.108	-.128
6	.097	.128	.062	-.302	-.183	.029	-.157
7	-.021	.129	.022	.111	-.270	.016	-.103
8	.151	.330	.325	.116	-.027	.254	-.331
9	.019	-.195	.215	-.178	-.339	-.137	.122
10	-.256	-.090	.227	-.332	-.169	-.308	-.117
11	.026	.106	-.025	-.009	.045	.023	.157
12	.115	.313	.422	.265	.000	.069	.139
13	-.179	-.016	-.260	.011	-.199	-.148	-.160

調査用紙 A 新規項目									
対人	課題	基本的	家庭で	地域と	道徳	先生と	主体	対話	自尊

	関係 能力	対応 能力	生活 習慣	のコミ ュ	の関わ り		の 学び	的で 深い 学び	的で 深い 学び	感情
1	.010	.192	.178	-.02 5	-.34 8	-.03 4	.005	.063	.073	-.06 4
2	-.09 1	-.00 9	.026	-.00 6	-.46 4	-.05 3	-.18 9	-.005	.028	-.01 1
3	.107	.296	.238	-.06 8	-.13 1	-.06 9	.176	.107	.147	-.02 9
4	.102	.022	.138	.025	-.09 9	.066	.135	.261	.209	.142
5	.013	.341	.334	-.04 2	-.09 9	-.10 1	.008	.142	.027	-.09 4
6	-.03 9	.075	.117	-.02 6	-.32 5	-.14 4	.112	.170	.107	.081
7	-.08 5	.172	.235	-.01 1	.039	-.08 3	.048	.078	-.200	-.04 6
8	.141	.348	.304	.431 *	.208	-.28 7	.162	.280	.022	.240
9	-.18 7	-.11 8	-.14 0	-.04 3	-.11 0	.114	.049	.144	-.014	-.08 5
10	-.33 1	.023	-.34 3	.093	-.17 5	-.15 4	-.28 8	-.066	-.255	-.41 6
11	-.03 1	.097	.144	.003	.011	.160	-.05 4	.083	-.121	-.00 5
12	.045	.325	.272	.375 †	.365 †	.168	-.00 1	.302	-.157	-.06 7
13	-.13 0	-.02 2	.171	-.07 9	-.11 7	-.13 1	-.41 0	† -.166	-.274	-.14 7

調査用紙 A 妥当性項目

	SC	親の監 督	公的交流	私的交流	対人 望ましい 行動	対人 遵守すべ き行動	個人 遵守すべ き行動
1	-.156	-.024	-.374 †	-.184	-.027	-.188	.171

2	.080	-.054	-.331	-.192	-.181	-.342	.021
3	-.280	-.053	-.207	-.171	.052	-.104	-.177
4	-.154	.084	-.109	.037	.083	-.174	.213
5	-.358 †	.007	-.124	-.122	-.010	-.149	.079
6	-.150	.229	-.316	-.099	-.065	-.278	.178
7	-.133	.044	.099	.128	-.039	-.404 †	-.087
8	-.272	.196	.056	.282	.063	-.184	.296
9	.179	.347	-.236	.018	-.222	-.343	-.106
10	.182	.254	-.411 †	.015	-.266	-.199	.579 **
11	-.073	-.089	.018	-.071	-.045	.061	.021
12	-.241	.294	.132	.462 *	.099	-.114	.370 †
13	.050	-.343	.102	-.093	-.121	-.208	-.139

調査用紙 B 全体因子分析結果に基づく尺度得点

	1	2	3	4	6	7	8	9	10	11	12
1	.068	-.078	-.155	-.026	.246	.154	-.198	.037	.195	.225	-.008
2	.166	-.071	-.030	.006	.184	.121	.002	.061	.224	.155	.044
3	.109	.138	-.046	-.059	.238	.230	-.419	.188	.419 *	.268	-.050
4	-.347	-.587 **	-.344	-.256	-.326	-.312	-.267	-.555 **	-.211	-.326	-.400 †
5	.144	.030	.010	.144	.167	.188	-.145	-.091	.166	.236	.075
6	-.145	-.196	-.237	-.079	.246	-.042	-.125	-.089	-.062	.025	-.132
7	.261	-.021	.069	-.019	.111	.354 †	.050	-.018	.344	.205	.106
8	.026	.506 *	.007	-.113	.388 †	.114	-.114	.474 *	.148	.193	.213
9	-.100	-.183	-.184	-.092	.119	.034	-.309	-.024	.049	.004	-.176
10	.398 †	-.182	.190	.364 †	-.062	.074	.321	-.103	.179	.280	.274
11	-.037	.142	-.192	-.136	-.005	-.116	-.115	.033	-.021	.046	-.007
12	-.165	-.165	-.269	-.007	-.132	-.134	-.236	-.220	-.130	.035	-.206
13	.118	.390 †	-.067	.038	.323	.164	-.245	.379 †	.338	.306	.215

調査用紙 B 新規項目

	国語 有用感	算数有 用感	国語 有能感	算数 有能感	方略 外的	方略 内的	暗記・繰 り返し	社会へ の 興味	将来への 意識
1	.211	.002	.246	-.114	-.198	-.12	.010	.176	-.04
						2			0
2	.211	.080	.184	-.003	.002	-.03	.055	.113	-.05
						0			8
3	.264	.133	.238	.026	-.419	-.13	-.06	.319	.186
						2	0		
4	-.225	-.24	-.32	-.333	-.267	-.37 †	-.41 *	-.36 †	-.57 **
		9	6			3	8	2	3
5	.215	.140	.167	.008	-.145	.080	-.02	-.00	.037
							3	6	
6	-.164	-.21	.246	-.098	-.125	-.22	-.01	-.07	-.16
		1				9	4	2	0
7	.259	.243	.111	.051	.050	.004	.165	.180	.024
8	.177	-.04	.388 †	.121	-.114	.151	.226	.230	.468 *
		7							
9	.011	-.11	.119	-.093	-.309	-.23	-.11	.061	-.17
		1				3	2		2
10	.209	.274	-.06	.060	.321	.346	.143	-.04	-.23
			2					3	8
11	-.070	-.12	-.00	-.165	-.115	-.01	-.01	-.13	.122
		2	5			0	3	2	
12	-.114	-.09	-.13	-.281	-.236	-.19	-.22	-.38 †	-.19
		0	2			7	8	1	5
13	.349	.055	.323	-.024	-.245	.125	.174	.309	.427 *

調査用紙 B 妥当性項目

	有用感 将来, 自 己	有用感 興味	有用感 他者比較	学校期 待 学習内 容	学校期 待 教師	積極性	キャリア 関与	キャリア コントロ ール
1	.108	-.026	.130	.225	.195	.138	-.103	-.012

2	.151	.006	.106	.155	.224	.120	-.095	.016
3	.118	-.059	.156	.268	.419	.292	.086	.124
4	-.433 *	-.256	-.297	-.326	-.211	-.518 *	-.561 **	-.618 ***
5	.143	.144	.168	.236	.166	-.069	.013	-.062
6	-.070	-.079	.000	.025	-.062	-.023	-.211	-.106
7	.207	-.019	.374 †	.205	.344	.063	-.046	-.013
8	.086	-.113	.105	.193	.148	.450 *	.508 *	.498 *
9	-.066	-.092	.030	.004	.049	.121	-.141	-.159
10	.291	.364 †	.123	.280	.179	-.065	-.121	-.150
11	.014	-.136	-.113	.046	-.021	-.010	.104	.119
12	-.121	-.007	-.149	.035	-.130	-.243	-.101	-.203
13	.127	.038	.117	.306	.338	.455 *	.337	.334

4. 新規道徳項目の分析結果

新規道徳項目について、小学校と中学校それぞれについて記述統計を算出した。評定は 1 点（当てはまる）から 4 点（当てはまらない）の 4 件法であり、全般的に小学校と比較して中学校における肯定率が低いことが明らかとなった。

小・中学校共に平均値はそれほど低くないものの、小学校よりも中学校の方が道徳授業に対する受け止めがよくない傾向は明らかに示されている。中学 3 年生だと、道徳授業が自分の生活や生き方にそれほど関係していないことを冷静に見据えている可能性がある。また、中学校では問題解決的な話し合いをそれほどしていないことも考えられる。そもそも中学 3 年で道徳授業が週一時間きちんと行われているかどうかとも疑問がある。それでも小学校は 6 年生が対象であるため、比較的に中学生と近い値が出ている方だと思われる。

また、これらの得点については、項目 30 が、平成 28 年度本体調査の児童質問紙における「52 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ（平均値：1.57、標準偏差：0.77）」「64 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ（平均値：1.43、標準偏差：0.74）」「74 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ（平均値：1.88、標準偏差：0.95）」などの教科について回答を求める項目に対応している。肯定率を比較すると、国語や算数の肯定率と比較して道徳の肯定率は低いものの、理科とはほぼ同等の肯定率となっていることが分かった。生徒質問紙についても、ほぼ同様の結果であった。

一般に、道徳授業は児童生徒の生活経験に近く、社会に出た時に役立つと想定されている。しかし、実際のところ、児童生徒は道徳を主要科目である国語・算数ほど役立つとは思っておらず、理科などの科目と同じくらいにしか役立たないと認識している点分かる。この点で中学生にとっては、受験と関係していないことも関連しているかもしれない。

専門性が高い科目ほど将来の役に立たないと判断されやすいが、道徳のように専門性がそれほど高くない内容であっても、あまり役に立たないと児童生徒に判断されている点で、指導の内容や方法に改善の余地がある。

小学校		平均値	標準偏差
30	道徳の授業は、自分の今の生活や将来にとってためになると思う	1.84	0.881
31	道徳の授業では、自分を見つめ、自分の生き方について考えを深めることができた	2.03	0.894
32	道徳の授業において、様々な問題や課題についてグループや学級で考え話し合う活動に取り組んでいたと思う	1.87	0.825

中学校		平均値	標準 偏差
30	道徳の授業は、自分の今の生活や将来にとってためになると思う	2.27	0.974
31	道徳の授業では、自分を見つめ、人間としての生き方について考えを深めることができた	2.22	0.936
32	道徳の授業において、様々な問題や課題についてグループや学級で考え議論する活動に取り組んでいたと思う	2.26	0.911

新規道徳項目のまとまりの良さを検討するため、独自調査の A パターンの児童質問紙全項目を対象に、因子分析（最尤法・プロマックス回転）を実施した。その結果、上述の項目 30 と項目 31 は同じ因子にまとまったものの、項目 32 は「主体的・対話的で深い学び」に該当する因子の方に含まれるという結果になった。一方で、生徒質問紙の同様の因子分析の結果においては、上述の新規道徳項目 3 項目すべてが同じ因子にまとまる結果となった。

小学校では、近年、道徳授業で問題を解決したり議論したりする活動をよく取り入れるため、各教科と同様に「主体的・対話的で深い学び」をしている印象が強まったと思われる。ただ、中学校では道徳授業がすべて道徳的価値に関わる特別な内容であり、指導法も登場人物の心情を読み取る方式が多いと、各教科と共通した学習法ではないと見なされている傾向が明らかになった。

上述の因子分析で見いだされた因子による学力の予測性を検討するため、各因子を説明変数、学力代理変数を従属変数とした重回帰分析（強制投入法）を実施した。その結果、新規道徳項目で構成される因子は、児童質問紙と生徒質問紙ともに有意な説明力を持たなかった。

道徳授業の肯定率が高ければ、学力の高さ（学力向上）に関連するのではないかという仮説を立てたが、今回の調査分析からは、道徳授業が学力の予測性に影響していることを実証することはできなかった。

従来の道徳授業の指導法では、学力との相関関係が見られなかったが、今後の「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた道徳授業が増えてくれば、違った結果になる可能性はある。それは「総合的な学習の時間」の充実が学力向上に役立ったこととも関連づけられるはずである。

児童生徒の個人単位と学校単位のそれぞれのレベルで、変数間の相関関係を検討するためマルチレベル相関分析を行った（結果は次節参照）。学校単位の分析結果では、中学校（11校）の校数が限られていたため有意な相関が得られなかったものの、小学校（23校）では複数の有意な相関が認められた。新規道徳項目の得点が高い学校においては、基本的な生活習慣、主体的・対話的で深い学び、セルフコントロール、対人間での望ましい行動、対人関係形成能力が有意に高くなるといった関連が見いだされた。

小学校において道徳項目の得点が高い学校は、「基本的な生活習慣、主体的・対話的で深い学び、セルフコントロール、対人間での望ましい行動、対人関係形成能力」が有意に高くなることは、

両者に相関関係があることを実証している。

小学校の方が、道徳授業に「主体的・対話的で深い学び」を取り入れやすく、道徳授業で学んだことを日常生活にすぐ活用（汎用）しやすいところがあると思われる。

一方、中学校では従来の「読みとり道徳」が多いと、「主体的・対話的で深い学び」に転換しにくく、道徳授業で学んだことをすぐに基本的な生活習慣やセルフコントロールや人間関係等に活用（汎用）しにくいところがある。中学校用の教材には対人関係のスキル等を指導する内容が乏しいことも関連していると推察される。

5. 独自児童生徒調査の各尺度得点におけるマルチレベル相関分析

独自調査の児童生徒調査における各尺度得点について、校区レベルと児童生徒個人レベルを分離して尺度得点間の相関を算出するため、マルチレベル相関分析を実施した。

分析の結果、独自調査の児童調査 A パターンについては、以下に示す結果（なお、表の対角行列（太字）は級内相関、上三角行列は児童生徒レベルの相関、下三角行列は校区レベルの相関を表す）が得られた。級内相関係数はほぼすべての変数で有意であり、マルチレベル分析は妥当であると判断した。校区レベル（23 校区）の相関においては、学力代理変数と有意な関連がある変数として、新規項目の主体的で深い学びや対話的で深い学びとの強い正の相関が認められ、新規項目の人間関係や自己理解等、自尊感情、基本的な生活習慣、セルフコントロールとも有意な正の相関が認められたことから、新規提案項目を校区レベルの学校特徴として用いるうえでの一定の有効性が確認された。

	1	2	3	4	5
1. 全体：主体的・対話的な学習活動	.043 *	.583 *	.517 *	.527 *	.632 *
2. 全体：セルフコントロール	.807 *	.049 *	.288 *	.381 *	.574 *
3. 全体：地域との関わり	.165	.261	.076 *	.410 *	.386 *
4. 全体：家族とのコミュニケーション	.542	.560	.504	.019 *	.438 *
5. 全体：対人関係能力	.725 *	.804 *	.187	.554	.051 *
6. 全体：自尊意識	.845 *	.692 *	.221	.796 *	.802 *
7. 全体：道徳の授業の有用感	.735 *	.624 *	.277	.555	.721 *
8. 新規：基本的な生活習慣	.844 *	.940 *	.223	.409	.681 *
9. 新規：家庭でのコミュニケーション	.644	.673	.623	.943	.669
10 新規：地域との関わり	.118	.365	.933 *	.625 +	.243
11 新規：道徳の有用感	.750 *	.641 *	.279	.437	.622 *
12 新規：先生との学び	.743 *	.671 *	.173	.329	.568 +
13 新規：主体的で深い学び	.932 *	.802 *	.349	.818 *	.667 *

14	新規：対話的で深い学び	.907 *	.671 *	-.16 7	.324	.739 *
15	新規：自尊感情	.825 *	.476	.068	.594 +	.636 *
16	新規：対人関係能力	.974 *	.785 *	.358	.569	.760 *
17	新規：課題対応能力	.619 +	.881 *	.382	.699 +	.680 *
18	妥当：セルフコントロール	-.82 7	-.98 2 *	-.11 3	-.40 2	-.77 7 *
19	妥当：親の監督	.440	.433	.200	.882 +	.489
20	妥当：公的交流	.068	.080	.967 *	.236	.073
21	妥当：私的交流	.261	.455	.859 *	.914 *	.174
22	妥当：対人間で遵守すべき行動	.531 +	.554 +	.110	.448	.960 *
23	妥当：対人間での望ましい行動	.873 *	.899 *	.341	.563	.887 *
24	妥当：個人として遵守すべき行動	.388	.635 +	.271	.563	.507
25	学力代理変数合計	.895 *	.689 *	-.01 9	.646 +	.640 *

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

	6	7	8	9	10
1. 全体：主体的・対話的な学習活動	.522 **	.568 **	.484 **	.444 **	.350 **
2. 全体：セルフコントロール	.399 **	.373 **	.801 **	.332 **	.124 **
3. 全体：地域との関わり	.307 **	.403 **	.217 **	.362 **	.765 **
4. 全体：家族とのコミュニケーション	.339 **	.391 **	.258 **	.870 **	.275 **
5. 全体：対人関係能力	.417 **	.453 **	.448 **	.378 **	.235 **
6. 全体：自尊意識	.032 *	.262 **	.361 **	.275 **	.206 **
7. 全体：道徳の授業の有用感	.586 +	.045 **	.280 **	.340 **	.260 **
8. 新規：基本的生活習慣	.782 *	.596 +	.028 *	.226 **	.086 **
9. 新規：家庭でのコミュニケーション	1.01 *	.477	.484	.007	.239 **

		4				
10	新規：地域との関わり	.123	.160	.192	.726	.029 *
11	新規：道徳の有用感	.524 +	.984 **	.655 *	.369	.179
12	新規：先生との学び	.548 +	.432	.618 +	.414	.201
13	新規：主体的で深い学び	.832 *	.720 *	.752 *	.905 +	.369
14	新規：対話的で深い学び	.759 *	.652 *	.713 *	.306	-.22 4
15	新規：自尊感情	.957 *	.456	.632 +	.858 +	-.13 0
16	新規：対人関係能力	.860 *	.661 *	.817 *	.794 +	.307
17	新規：課題対応能力	.459	.481	.700 *	.954 *	.596 +
18	妥当：セルフコントロール	-.704 *	-.57 8 +	-.99 9 **	-.46 8	-.19 9
19	妥当：親の監督	.661 +	.433	.299	.609	.354
20	妥当：公的交流	.134	.193	.117	.378	.848 *
21	妥当：私的交流	.320	.246	.330	.958 +	.914 *
22	妥当：対人間で遵守すべき行動	.660 *	.684 *	.424	.515	.135
23	妥当：対人間での望ましい行動	.813 *	.740 *	.872 *	.661	.307
24	妥当：個人として遵守すべき行動	.382	.490	.442	.505	.398
25	学力代理変数合計	.804 *	.604 +	.735 *	.596	-.06 0

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

	11	12	13	14	15
--	----	----	----	----	----

1. 全体：主体的・対話的な学習活動	.649 **	.583 **	.913 **	.865 **	.438 **
2. 全体：セルフコントロール	.409 **	.325 **	.563 **	.497 **	.340 **
3. 全体：地域との関わり	.435 **	.312 **	.469 **	.432 **	.275 **
4. 全体：家族とのコミュニケーション	.429 **	.402 **	.584 **	.429 **	.305 **
5. 全体：対人関係能力	.504 **	.451 **	.570 **	.534 **	.328 **
6. 全体：自尊意識	.302 **	.389 **	.443 **	.433 **	.785 **
7. 全体：道徳の授業の有用感	.948 **	.399 **	.508 **	.507 **	.258 **
8. 新規：基本的生活習慣	.314 **	.258 **	.449 **	.409 **	.304 **
9. 新規：家庭でのコミュニケーション	.371 **	.326 **	.466 **	.361 **	.250 **
10. 新規：地域との関わり	.281 **	.209 **	.306 **	.306 **	.188 **
11. 新規：道徳の有用感	.067 **	.418 **	.560 **	.570 **	.282 **
12. 新規：先生との学び	.442	.032 *	.529 **	.463 **	.359 **
13. 新規：主体的で深い学び	.705 *	.650 +	.030 *	.707 **	.402 **
14. 新規：対話的で深い学び	.638 *	.597 +	.769 *	.046 **	.343 **
15. 新規：自尊感情	.424	.545 +	.758 *	.772 *	.046 **
16. 新規：対人関係能力	.676 *	.704 *	.914 *	.870 *	.835 *
17. 新規：課題対応能力	.448	.580 +	.737 *	.469	.219
18. 妥当：セルフコントロール	-.614 *	-.659 *	-.742 *	-.751 *	-.526 +
19. 妥当：親の監督	.284	.288	.716 +	.389	.471
20. 妥当：公的交流	.199	.078	.193	-.227	.068
21. 妥当：私的交流	.273	.255	.544	-.111	.076
22. 妥当：対人間で遵守すべき行動	.546 +	.393	.462	.624 *	.567 +
23. 妥当：対人間での望ましい行動	.697 *	.697 *	.834 *	.770 *	.642 *
24. 妥当：個人として遵守すべき行動	.515	.394	.537	.167	.126
25. 学力代理変数合計	.566 +	.592 +	.903 *	.904 *	.771 *

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

	16	17	18	19	20
1. 全体：主体的・対話的な学習活動	.840 *	.517 *	-.44 *	.405 *	.345 *
			5		
2. 全体：セルフコントロール	.597 *	.734 *	-.86 *	.307 *	.215 *
			9		
3. 全体：地域との関わり	.471 *	.260 *	-.21 *	.307 *	.788 *
			2		